

2021年度

(令和3年度)

事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

学校法人 桐朋学園

目 次

I 法人の概要

1 基本情報	1
2 建学の精神	1
3 学校法人の沿革	2
4 設置する学校・学部・学科等	3
5 学校・学部・学科等の学生等数の状況	3
6 収容定員充足率	4
7 役員の概要	4
8 評議員の概要	5
9 教職員の概要	6

II 事業の概要

1 主な教育・研究の概要	7
2 中期的な計画について	10
3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況	
(1) 法人	13
(2) 男子部門	15
(3) 女子部門	21
(4) 音楽部門	28
(5) 法人本部	32
4 その他	
(1) 施設設備	33
(2) 学費及び補助金等	35
(3) 入学試験結果	37
(4) 教職員研究研修	39

III 財務の概要

1 決算の概要	
(1) 貸借対照表	42
(2) 資金収支計算書	43
(3) 事業活動収支計算書	45
2 主な収入の推移	
(1) 学生生徒等納付金収入	46
(2) 入学検定料収入	46
(3) 補助金収入	47
3 その他	
(1) 有価証券の状況	49
(2) 借入金の状況	49
(3) 学校債の状況	49
(4) 寄付金の状況	49
(5) 関連当事者との取引の状況	50
4 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応	
(1) 男子部門	50
(2) 女子部門	50
(3) 音楽部門	51

I 法人の概要

1 基本情報

(1) 法人の名称

学校法人 桐朋学園

(2) 主たる事務所

住所 〒182-8510 東京都調布市若葉町 1-41-1

電話番号 03-3300-2458

FAX番号 03-3300-2459

ホームページアドレス <https://www.toho-gakuen.com>

2 建学の精神

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、そして同じく仙川、調布及び富山市の計3つのキャンパスを持つ音楽部門の、3つの部門から成り立っています。

男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校（男子）、桐朋高等学校（男子）があります。

女子部門には、桐朋幼稚園、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校普通科、桐朋学園芸術短期大学があります。

音楽部門は、桐朋学園大学と桐朋女子高等学校内に音楽科（共学）を持ち、附属教育機関として全国各地に「子供のための音楽教室」を開いています。そして富山市には、桐朋学園大学院大学と桐朋オーケストラ・アカデミーがあります。

3つの部門に共通している建学の精神は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するというヒューマニズムに立つ、『人間教育』」です。各学校の教育目標は、下記のとおりです。

(1) 男子部門

桐朋学園小学校

「基礎学力を充実する」「心身を鍛える」「情操を培う」

桐朋中学校・桐朋高等学校

『自主』『敬愛』『勤労』を教育目標として、民主的な社会の担い手としてふさわしい自主性と協調性に富む人格の形成」

(2) 女子部門

桐朋幼稚園

「一人ひとりの、幸せな子ども時代のために」「生きるために必要な根を育てます」

桐朋小学校

「子ども一人ひとりを原点に」

「自分自身の人生の主人公に、そして社会のつくり手となりゆくための根っこを育てる」

桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

「こころの健康 からだの健康」「論理的思考力を鍛え、過程を重視する」

桐朋学園芸術短期大学

「現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成」

(3) 音楽部門

桐朋学園大学

桐朋学園大学大学院

桐朋女子高等学校音楽科

「自由で豊かな感性を持つ個性ある音楽家の育成」

「音楽教育による社会貢献」

「世界における音楽文化の創造」

桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

「音楽の早期・正規教育 聴音教育による音感やリズム感の育成」

「理論や知識のシステマチックな教育」

「音楽スタイルの理解とその実践」

「個人演奏に加え、合唱・合奏の重視」

桐朋学園大学院大学

「演奏の様式性の獲得」

「感性教育の実践」

「音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家の育成」

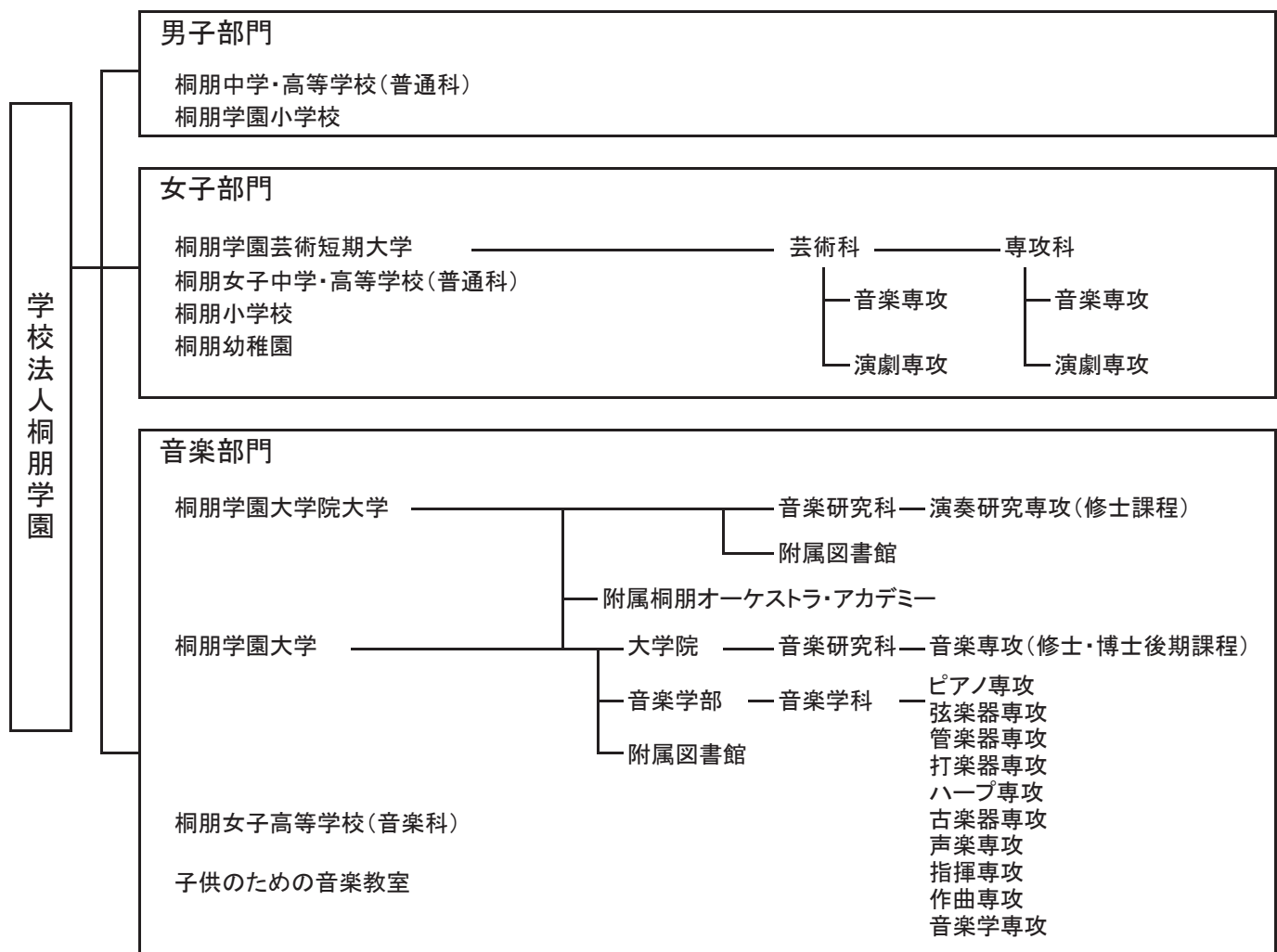
桐朋オーケストラ・アカデミー

「学園設立以来、培ってきた合奏教育をより高度に発展させる実践の場」

3 学校法人の沿革

昭和15年11月7日	財団法人山水育英会認可
昭和16年3月4日	財団法人山水中学校設立認可(国立:第一山水中学校、大阪:第二山水中学校。尚、第二山水中学校は昭和21年12月1日に分離)
昭和16年3月20日	財団法人山水高等女学校設立認可
昭和22年3月31日	財団法人山水中学校・財団法人山水高等女学校解散認可
昭和22年4月1日	財団法人桐朋学園設立、桐朋第一中学校・桐朋第二中学校設置認可
昭和23年3月10日	桐朋高等学校・桐朋女子高等学校設置認可。 桐朋第一中学校を桐朋中学校に、桐朋第二中学校は女子中学校に名称変更
昭和23年10月1日	子供のための音楽教室設置(於市ヶ谷家政学院)
昭和26年3月5日	財団法人桐朋学園を学校法人桐朋学園に組織変更認可(昭和26年1月29日東京都より認可)
昭和27年3月20日	桐朋女子高等学校音楽科増設認可
昭和29年12月1日	桐朋小学校・桐朋幼稚園設置認可
昭和30年2月1日	桐朋学園短期大学音楽科設置認可
昭和33年11月12日	桐朋学園小学校設置認可
昭和36年3月31日	桐朋学園大学音楽学部(演奏学科・作曲理論学科)設置認可
昭和38年3月30日	桐朋学園短期大学音楽科廃止認可
昭和39年1月25日	桐朋学園大学短期大学部文科・音楽科設置認可
昭和41年1月25日	桐朋学園大学短期大学部芸術科(音楽専攻・演劇専攻)設置認可
昭和41年12月26日	桐朋学園大学音楽学部学生入学定員変更受理
昭和42年1月18日	桐朋学園大学短期大学部学生入学定員変更受理
昭和42年12月28日	桐朋学園大学短期大学部専攻科演劇専攻設置受理
昭和43年3月30日	桐朋学園大学短期大学部音楽科廃止認可
平成5年12月21日	桐朋学園大学短期大学部専攻科音楽専攻・地域文化研究専攻設置受理
平成7年9月1日	桐朋学園大学音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー設置
平成10年12月22日	桐朋学園大学院大学音楽研究科演奏研究専攻設置認可
平成11年7月28日	桐朋学園大学短期大学部の期間を付した入学定員の廃止に伴う収容定員の増加認可
平成16年3月31日	桐朋学園大学短期大学部を桐朋学園芸術短期大学に名称変更受理
平成16年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成17年4月28日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科設置受理
平成17年7月29日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科収容定員変更認可
平成17年9月27日	桐朋学園芸術短期大学文科廃止受理
平成17年12月1日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成18年3月30日	桐朋学園芸術短期大学専攻科地域文化研究専攻廃止受理
平成24年5月1日	桐朋学園大学音楽学部演奏学科、作曲理論学科廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成27年8月31日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科定員変更認可
平成28年8月31日	桐朋学園大学大学院音楽研究科設置認可

4 設置する学校・学部・学科等



5 学校・学部・学科等の学生等数の状況

(2021年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	収容定員	現員数
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	10	14	14	10	10	20	19
桐朋学園大学	大学院							
	音楽研究科修士課程	45	58	57	54	53	90	129
	音楽研究科博士後期課程	3	4	4	4	4	9	4
	音楽学部 音楽学科	180	185	184	176	160	720	673
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	120	115	111	110	103	240	234
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	350	472	469	419	311	1,050	955
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	350	199	199	198	182	1,050	490
	音楽科	100	51	51	51	49	300	160
桐朋中学校		300	1,127	894	464	262	900	802
桐朋女子中学校		300	385	271	243	157	900	465
桐朋学園小学校		80	602	516	111	72	480	428
桐朋小学校		80	412	349	108	72	480	433
桐朋幼稚園		26	73	70	30	26	80	77
総計		1,944	3,697	3,189	1,978	1,461	6,319	4,869

6 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	1.05	1.00	1.00	0.95	0.85
桐朋学園大学	大学院 音楽研究科	1.47	1.49	1.42	1.53	1.38
	音楽学部 音楽学科	1.03	0.94	0.92	0.93	0.88
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	1.07	1.00	1.01	0.97	0.89
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	0.92	0.91	0.91	0.90	0.90
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	0.60	0.52	0.48	0.46	0.47
	音楽科	0.60	0.52	0.54	0.53	0.55
桐朋中学校		0.86	0.87	0.88	0.89	0.89
桐朋女子中学校		0.57	0.54	0.51	0.54	0.53
桐朋学園小学校		0.89	0.90	0.89	0.89	0.89
桐朋小学校		0.89	0.90	0.90	0.90	0.90
桐朋幼稚園		1.00	1.00	0.98	0.98	1.00

7 役員の概要

理事：定数 13～15人 現員 14人 監事：定数2～4人 現員 2人 (2022年3月31日現在)

	氏名	就任年月日 (直近重任日)	常勤・非常勤 の別	主な現職等
* 理事	河原 勇人	2010.4.1 (2019.4.1)	常勤	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 理事	原口 大助	2021.4.1	常勤	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 理事	今野 淳一	2019.4.1	常勤	桐朋女子中学・高等学校長
* 理事	梅津 時比古	2013.4.1 (2019.4.1)	常勤	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
* 理事	鈴木 正義	2017.4.1 (2019.4.1)	常勤	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 理事	高橋 博之	2016.4.1 (2019.4.1)	常勤	桐朋学園女子部門事務職員
* 理事	長瀬 浩平	2019.4.1	常勤	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
※ 理事	矢島 基美	2016.4.1 (2019.4.1)	非常勤	上智大学法学部特別契約教授
※ 理事	三浦 雅士	2020.4.1	非常勤	日本文藝家協会理事、サントリー文化財団理事、 日本芸術院会員
※ 理事	薄井 紀子	2016.4.1 (2019.4.1)	非常勤	東京慈恵会医科大学客員教授
※ 理事	羽原 清雅	2008.11.1 (2019.4.1)	非常勤	元新宿区教育委員
※ 理事	垣添 忠生	2010.4.1 (2019.4.1)	非常勤	国立がんセンター名誉総長、日本対がん協会会長、 日本学士院会員
※ 理事	関口 榮司	2018.4.1 (2021.4.1)	非常勤	保隣教育財団理事、前保善高等学校校長
※ 理事	片岡 哲郎	2021.4.1	非常勤	開智望小学校・中等教育学校理事長代理 前桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
※ 監事	伊藤 昌毅	2016.4.1 (2019.4.1)	非常勤	弁護士
※ 監事	関口 恭三	2018.4.1 (2021.4.1)	非常勤	公認会計士

- ・業務執行・非業務執行の別…*が業務執行理事
- ・責任限定契約の内容の概要

本法人は、私立学校法第44条の2で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条の規定により、上記※の役員との間に、同法第44条の2の役員の実任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、寄附行為であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額としております。

- ・補償契約・役員賠償責任保険契約の状況
- 締結の事実はありません。

8 評議員の概要

定数 34～37人 *は理事兼任者14人
現員 35人

(2022年3月31日現在)

氏 名	就任年月日 (直近重任日)	主な現職等
後藤 恭子	2018. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園小学校教諭
村野 英治	2019. 4. 1	桐朋中学・高等学校教諭
小野島 正道	2020. 4. 1	桐朋中学・高等学校教諭
土舘 智子	2021. 4. 1	桐朋学園男子部門総務課長
佐久間 彩子	2016. 4. 1	桐朋小学校教諭
中野 浄	2019. 4. 1	桐朋女子中学・高等学校教諭
安宅 りさ子	2011. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園芸術短期大学教授
大槻 清美	2016. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園女子部門総務課長兼経理課長
合田 香	2019. 4. 1	桐朋学園大学専任講師
中井 恒仁	2020. 4. 1	桐朋学園大学教授
小森谷 泉	2015. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園大学教授
鶴岡 純子	2019. 4. 1	桐朋学園音楽部門事務職員
津澤 絵理	2019. 4. 1	桐朋学園法人本部事務職員
生江 隆之	2013. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋中学・高等学校同窓会長
橋田 伸子	2018. 6. 23 (2019. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校同窓会長
二宮 和子	2010. 4. 20 (2019. 4. 1)	桐朋学園音楽部門同窓会長
* 原口 大助	2021. 4. 1	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 今野 淳一	2019. 4. 1	桐朋女子中学・高等学校長
* 梅津 時比古	2013. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
* 鈴木 正義	2017. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 高橋 博之	2016. 4. 1 (2019. 4. 1)	桐朋学園女子部門事務職員
* 長瀬 浩平	2019. 4. 1	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
* 河原 勇人	2010. 4. 1 (2019. 4. 1)	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 羽原 清雅	2008. 11. 1 (2019. 4. 1)	元新宿区教育委員
* 垣添 忠生	2010. 4. 1 (2019. 4. 1)	国立がんセンター名誉総長、日本対がん協会会長、日本学士院会員
* 関口 榮司	2018. 4. 1 (2021. 4. 1)	保隣教育財団理事、前保善高等学校長
* 片岡 哲郎	2021. 4. 1	開智望小学校・中等教育学校理事長代理、前桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 三浦 雅士	2020. 4. 1	日本文藝家協会理事、サントリー文化財団理事、日本芸術院会員
* 矢島 基美	2016. 4. 1 (2019. 4. 1)	上智大学法学部特別契約教授
* 薄井 紀子	2016. 4. 1 (2019. 4. 1)	東京慈恵会医科大学客員教授
本多 俊毅	2021. 7. 31	桐朋中学・高等学校PTA会長、一橋大学大学院教授
小林 純	2017. 5. 24 (2019. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校PTA会長、RE FACTORY株式会社代表取締役
木下 晶	2017. 4. 1 (2020. 4. 1)	富山県芸術文化協会会長
井上 淳子	2021. 4. 1	井上学園理事長、鶏鳴幼稚園園長
首藤 波津子	2017. 4. 1 (2020. 4. 1)	スポーツネットワークジャパン理事長

9 教職員の概要

(2022年5月1日現在)

部門	区分 学校名	本務		兼務	
		教員	職員	教員	職員
男子部門	桐朋高等学校	48	9	14	12
	桐朋中学校	34	7	18	8
	桐朋学園小学校	23	0	4	8
	計	105	* 1 16	36	28
	平均年齢	43	37	48	48
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	21	8	149	3
	桐朋女子高等学校普通科	40	13	39	16
	桐朋女子中学校	30	2	33	10
	桐朋小学校	26	2	10	15
	桐朋幼稚園	4	0	1	5
	計	* 2 121	25	232	49
	平均年齢	45	46	52	52
音楽部門	桐朋学園大学院大学	6	5	4	0
	桐朋学園大学・大学院	42	20	391	39
	桐朋女子高等学校音楽科	9	6	22	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	0	0	0	2
	子供のための音楽教室	0	0	377	8
	計	57	31	* 3 794	49
	平均年齢	55	44	48	44
法人本部			3		1
	平均年齢		52		27
総計		283	75	1,062	127

* 1 外国語指導助手(ALT)を含む。

* 2 特任教授、代替教員を含む。

* 3 非常勤講師の他、嘱託演奏員、音楽教室研究員を含む。

Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

桐朋学園大学院大学音楽研究科、桐朋学園大学音楽学部音楽学科及び大学院音楽研究科並びに桐朋学園芸術短期大学芸術科のポリシーは、以下の通りです。

(1) 桐朋学園大学院大学音楽研究科

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

- ・音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に貢献することができる能力を身につけた学生
- ・音楽芸術の分野で真のリーダーになれるよう研鑽を積み、世界の音楽文化に多大な貢献ができる能力を身につけた学生

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

- ・桐朋学園大学院大学のカリキュラム（教育課程）は、学生各個の主体的な研究活動を活かしつつ、個々に専攻する楽器について、より高度な演奏技能を深めるとともに、作品創作研究を含む「重奏研究」「オーケストラとの協演によるコンチェルト実習」など、大学学部卒業後の研究にふさわしい多彩な内容となっている。とりわけ「重奏研究」においては、学生同士のペアのみならず、「指導教員との共演」による実技研究を特徴としており、多様な演奏様式と表現法が学修することができる。また、「作品分析」などの講座系の授業も実習系の科目に深く関連させながら、厳選されたプログラムによって、学生各個の主体的研究が効果的に行われるように編成されている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

○桐朋学園大学院大学が求める学生像

桐朋学園大学院大学は、芸術行為・音楽実践の原点に立ち返り「演奏の様式性の獲得」と「感性教育の実践」を建学の精神とし、将来「音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に活躍することのできる者」を学生として受け入れている。

○入試の方法

桐朋学園大学院大学の教育理念・教育方針・教育内容を理解し、桐朋学園大学院大学における研究に必要な音楽的能力を有する者を、演奏実技試験及び研究計画書に基づく面接によって選抜している。

○入試課題

桐朋学園大学院大学は、音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家を育成し、国内はもとより、国際的にも活躍する人材の輩出を目指している。入学試験においては、顕在的、潜在的能力を有する者を「技術の到達度」、「表現力」、「感性」、「個性」などの観点を中心に、実技の能力のみに偏らず、大学院での具体的な研究計画を提出させ、総合的に桐朋学園大学院大学に受け入れるべき学生かどうかを判定している。

(2) 桐朋学園大学音楽学部音楽学科

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。

I. 専門分野を究めるための表現・意欲の分野

- ・音楽の伝統文化を継承しながら、実践的でレベルの高い個性ある表現力を有している
- ・専門分野を主体的に学び続ける力を持っている

II. 専門を支える基礎力としての知識・技能の分野

- ・音楽家として必要な理論・知識・技能を有している
- ・耳と感性の訓練により、自身の音を聴き、よいものを探求して見つけ出す能力を持っている

III. 柔軟で汎用的な視点を持つための理解・判断の分野

- ・多様な文化的背景をもつ人びととの相互理解をはかり、他者とのコミュニケーションに高い能力を発揮することができる
- ・今日的な課題について多角的な視点から見つめ、適切な判断ができる

IV. 専門の枠を超えて新しい音楽文化を創造するための関心・創造的思考の分野

- ・個人の能力を生かして、他者とともに音楽をつくり、みずからの能力もさらに広げていくことができる
- ・幅広い音楽文化を学び、音楽表現の可能性を広げることができる

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

ディプロマ・ポリシーに掲げた4分野の能力を習得するため、3群の科目群を用意し、必修部分と選択部分を設定する。詳しくは、以下に掲載している。

<https://www.tohomusic.ac.jp/college/profile/curriculum.html>

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- ・音楽表現に対する能力や意欲を有し、自己の目標を持っている者
- ・音楽文化に関する知識と技量を習得し、社会の発展に貢献する意思のある者
- ・音楽文化の領域を学ぶために必要な理解力・構想力を持っている者

(3) 桐朋学園大学大学院音楽研究科修士課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

音楽実践に不可欠な高度な能力を養い、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

修士課程は音楽専攻のもとにピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の5コースを置き、専攻としてのカリキュラム・ポリシーを以下の通り定める。

大学院音楽研究科は、音楽実践に不可欠な高度な能力を習得し、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。その目的のために、各コースの特質に適合した、以下の教育課程を編成している。修士課程は2年以上の在学期間に、コースごとに開設される実技あるいは実習・演習等を履修し、また、学術的研究を支える関連科目を所定の範囲で履修しなければならない。学位審査は、修了演奏および研究レポートの審査によって行われ、合格者は修士（音楽）の学位を授与される。学生がより深く専門性を極めるとともに、多面的な音楽教養を育むことができるように、カリキュラムが組まれている。

〈ピアノコース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な技術と豊かな芸術性を持ったピアニストを育成する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスンも多く用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈弦楽器コース〉

学士教育をさらに発展させながら、より高度なレベルで演奏家としての能力を向上させる。そのために必要な実践的、理論的な専門性を持った研究を展開する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスン等も用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈声楽コース〉

学士教育をさらに発展させながら、オペラ研究分野、歌曲研究分野を置き、高度な専門性を有した研究を実施するとともに、豊かな芸術性を育む。各自の研究分野について豊かな演奏実践を経験させるとともに、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈作曲コース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な作曲法の体得と現代を含む作曲家の作品の緻密な分析を展開し創作を発展に導く。作品発表も積極的に行い実践においても更なる向上を目指す。

〈音楽学コース〉

学士教育をさらに発展させながら、現代にふさわしい多面的な視点と精緻な実証性を備えた研究を展開する。国際的な成果の達成に向けて、外国語及び日本語文献の精読を徹底するとともに、豊富な発表機会を設け、音楽大学ならではの芸術的感性と学者としての高度な論理性を両立させた専門性の高い音楽学者の道へと導く。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院修士課程は、高度に専門的かつ広汎な視野に立ち、音楽についての学識と技術をもった音楽の実践や教育を行う人材の養成を目的としている。この教育理念に基づき、音楽に関する見識、技術を有し、なおかつ幅広い視野から知的な関心や柔軟な感性を育むことのできる人材を求めている。

(4) 桐朋学園大学大学院音楽研究科博士後期課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

修士課程等で修得した能力を基盤としながら、極めて高度な知識と卓越した技能を獲得し、音楽に関する学術的研究を自立的に行う能力、および音楽教育を発展させる指導者になり得る素養を身につけ、博士後期課程の修了要件を満たした者に博士の学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

専門領域における極めて高度な知識、教養、見識及び卓越した技能を持って研究及び演奏を行う能力を獲得する。修了後には高等教育機関で教育や研究に従事するために必要な問題発見能力、課題解決能力、他の専門領域や他者の知見を理解しクリティカルに検証する能力を習得する。また、教育研究を持続的に推進する人材として、社会や文化に対する広い視野と高い見識を培う。

上記ポリシーの実現のために、ピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の5つの研究領域を置き、各自の専門とする領域について学術研究を行う。年次ごとの研究指導のもとで作成する研究計画書に基づいて研究を計画的に実施するとともに、その成果を逐次まとめ、発表する。音楽作品、演奏様式等についての知識を深めるとともに、音楽研究に必要な様々な方法論を取得し、自らの研究の礎とする。また、討論や研究発表などを通じて積極的に問題提起を行い、研究成果のプレゼンテーションの技術も高めていく。最終的には、演奏を通じた実践的研究と学術的研究が一体化した統合的な研究を目指し、その成果として研究演奏及び博士論文の執筆と公表を義務づけている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院博士後期課程は、専門領域、また広く音楽芸術全般に関する専門的な知識や技能を修得しており、さらに自らの研究課題に基づいて高度な研究を実施するための資質や意欲があり、実践、教育等において広く国際的な視野に立って音楽芸術を深く考究する資質や意欲がある人材を求めている。

(5) 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

豊かな感性と知識を備えた音楽家になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

・ 芸術科音楽専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた演奏家、指導者の育成と研究を目的とし、音楽芸術における演奏技術、表現の基本を体得することを目的としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

・ 〈楽譜を読み取る力〉

音楽理論、ソルフェージュ、音楽史などの基本を習得し、楽譜に書かれていることを正確に読み取る力を養う。

・ 〈演奏表現〉

個人レッスンを中心に、基礎的な演奏技術、表現力を身に付けるための実践的な力を養う。

・ 〈アンサンブル〉

古典から近代までクラシックを中心とした楽曲を学び、基礎的なアンサンブル能力を獲得する。

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

- ・ 専門実技、音楽理論についての知識と基礎的な理解力を有する者。(知識・理解)
- ・ 楽典、ソルフェージュ、和声理論などを体系的に学習し、積極的に学ぶ意欲をもっている者。(思考・判断)
- ・ 音楽のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)
- ・ 他者と集団での創造活動をするための協調性があり、専門実技、アンサンブルなどに積極的に参加できる者。(態度)
- ・ プロフェッショナルな音楽家を目指し、その技能習得に要する基礎的な演奏技術と表現能力がある者。(技能・表現)

(6) 桐朋学園芸術短期大学演劇専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科演劇専攻は幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現の基本を体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

・ 〈戯曲を読み解く力〉

戯曲の読解力を養い、言葉を演劇作品にしていけるための想像力を培う。

・ 〈身体訓練〉

声を含めた身体訓練を通して、自分の想像した表現を実現する力を身につける。

・ 〈アンサンブル〉

アンサンブルに必要な優れたコミュニケーション能力と協働の精神を養う。

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

- ・ 専門俳優または表現者に必要な日本語の読解力がある者。(知識・理解)
- ・ 習得した知識・技能を活用し、課題に取り組むことができる者。(思考・判断)
- ・ 演劇のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)
- ・ 基礎的なコミュニケーション能力と協調性があり、集団での創造活動に積極的に参加できる者。(態度)
- ・ 専門俳優または表現者（ミュージカル俳優、声優、ダンサー、パフォーマー等）を目指し、その技能習得に要する基礎的な身体能力と表現力を有する者。(技能・表現)

2 中期的な計画について

桐朋学園では、2022年度から始まる5か年の中期的な計画（以下「中期計画」といいます。）を策定しました（2022年3月25日評議員会承認、同日理事会決定）。本法人では、原則として、毎期に改定を行うローリング方式にて中期計画を策定しております。

ローリング方式を採用する理由は、本法人を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するとともに、期毎の進捗状況も見据えながら、施策の優先順位や実行方法等、適宜見直しを図っていくためです。ただし、基本方針は一貫しており、以下に示した5点です。

桐朋学園は、男子部門、女子部門、音楽部門の3つの部門から構成される私学です。3つの部門はそれぞれが歩んできた歴史を背景に特色ある教育を展開してきました。そして、法人内部において、この3つの部門は、自部門の教育と運営に主体性と責任を持ち、相互に良い影響を及ぼし合っており、学園全体にも大きな活力を生み出してきたのです。

それぞれが特色ある教育を行っていますが、「人間性豊かで意欲的な、自主的・創造的な人間の育成」が、3部門に通底する教育目標です。したがって、これを、中期計画の根幹に据え、学園全体の目標としています。

以下に示しましたのは、この学園全体の目標を実現に導く基本方針となります。

- | | |
|-----|---|
| I | 必要な「学生生徒数」を確保し、安定した収入（「学生生徒等納付金」「補助金」「その他」）を得る。 |
| II | 質の高い教育を実現させる為に必要な支出（「教育研究経費」など）を行うとともに、精力的に「支出削減」に取り組む。 |
| III | 収支のバランスを図り、一定の基本金組入前当年度収支差額を確保する（各部門とも収支係数「5%」が指標。なお、音楽部門仙川キャンパスは「6.5%」を指標と |
| IV | 永続的な学校運営のため、校舎建て替え等を含む中長期の財務計画を策定し、年度ごとに精緻なものにしていくとともに、着実に実行する。 |
| V | 部門としてのガバナンス機能をさらに強化するとともに、法人として一定のマネジメント機能が発揮できるようにする。 |

上記学園全体の目標及び基本方針を踏まえつつ、各部門では、それぞれが抱える課題に応じ、独自の目標を設定しています。

冒頭で触れた2022年度起点の中期計画を策定する基になったのが、2021年度を起点とする前期中期計画（2021～2025年度）ですが、2021年度において各部門は、以下に掲げる目標を掲げて、それぞれの課題に取り組んでまいりました。

尚、その進捗状況等の詳細は、「3 事業総括、主な事業計画と進捗状況」（本報告書15頁～32頁）をご覧ください。

○男子部門

学校名	項目	目標
桐朋中学校・高等学校	新教育課程策定・実施	本校の学習面を中心とした課題の克服 中学生の学習の定着 英語科外国人講師の充実
	進学指導の充実	高校生の志望実現に向けた進路指導の充実
	ICT機器の整備と活用	新学習指導要領下での電子情報機器の活用
	研修・行事プログラムの充実	生徒の主体的な行動における質的な向上 国際交流活動のさらなる充実
	安全・安心な学校生活の実現に向けた取組	災害時に限らない日常生活の点検・整備
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保
桐朋学園小学校	施設・設備の拡充	タブレット端末を活用できる環境の整備
	グローバル化	外国語教育の拡充と国際理解教育の推進
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保
	安全安心な学校管理	COVID-19感染症対策の充実 児童の登下校時の安全確保
	教育環境整備	教育補助員の充実 クラス定員減
事務局(管理運営)	ガバナンス体制の整備	諸規程の改正・整備
	安定した財務基盤の構築	学費改訂案の策定と経常費補助金分析
	施設設備の整備・充実	既存維持管理計画の立案、作成 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新 省エネ計画の立案、作成
	人材育成・人材活用	優秀な教職員の確保 人事配置計画の立案、作成 教職員のスキルアップ

○女子部門

学校名	項目	目標
桐朋学園芸術短期大学	教育の改革と質保証	適切な学習成果の査定 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の活性化 他大学との連携強化 自己点検評価の充実 情報公開の推進
	学生募集	アドミッション・ポリシーに基づく学生募集 広報活動の強化
	将来構想	短期大学将来構想の策定
桐朋女子中学校・高等学校(普通科)	新教育課程の全面実施、探究型授業の整備・設置、こころの健康	女子中高の特性を活かした新教育課程の編成、実施 モットー「こころの健康 からだの健康」の更なる充実
	進学指導の充実	個々人の希望する進路の実現
	ICT機器の活用と危険性の認識	個々人が利用するタブレット端末の活用策の検討 活用上の課題等についての教育・啓発
	海外研修プログラムの充実	世界に触れる経験を一人でも多くの生徒に準備
	危機管理対応の充実	東日本大震災、COVID-19への対応で得た経験・知見の整理と活用
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保、寄付金サイトの活用
桐朋小学校	施設・整備の拡充	COVID-19から命と健康を守り、充実した教育活動の推進
	グローバル化	世界平和や持続可能な未来のため考え行動できる「地球市民」の育成
	安定的な収入の確保	建学の精神・教育理念・教育目標実現の為の保護者との協働
	建築計画	「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長する」教育を実現する建築の推進
桐朋幼稚園	安定的な収入の確保	建学の精神・教育理念・教育目標実現の為の保護者との協働
	教育環境整備	保育者の増加等人的環境の整備
	建築計画	「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長する」教育を実現する建築の推進
事務局(管理運営)	安定した財務基盤の構築	経費の削減と予算配分の重点化 自己収入の増加 資産運用状況の改善
	人材育成・人材活用	人事の適正化 事務の効率化と合理化の推進
	施設設備の整備・拡充	施設設備の効率的な維持管理 中長期的な整備計画の策定 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新
	ガバナンス体制の整備	災害等緊急時の対応整備 安全衛生管理上の環境整備 セキュリティ対策の充実 省エネルギー、省資源化への取り組み

○音楽部門

学校名	項目	目標
桐朋学園大学	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進 Covid-19に起因する状況への対応
	学生確保	学校の魅力発信の強化 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	富山キャンパスとの連携強化 調布市との連携強化 海外の教育機関との連携強化
桐朋学園大学大学院	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進 Covid-19に起因する状況への対応
	学生確保	専攻新設適否の検討 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	TAの高校の授業への関わり 調布市との連携強化
桐朋女子高等学校(音楽科)	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進
	生徒確保	学校の魅力発信の強化 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	音楽教室との連携強化

○音楽部門

学校名	項目	目標
子供のための音楽教室	教育の改革と質の保証	設立の趣意を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教室運営の点検・改善 Covid-19に起因する状況への対応
	生徒確保	生徒の安定的な確保と収支の改善
	連携・協力	音楽教室の運営状況の把握
桐朋学園大学院大学	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教育環境の整備 教務システムの電算化の促進
	学生確保	志願者増に向けた方策の検討・実施 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	情報共有の強化 公開講座の充実
桐朋オーケストラ ・アカデミー	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 Covid-19に起因する状況への対応
	学生の安定的な確保	国内外における認知度の向上
	連携・協力	情報共有の強化 地域との連携強化
事務局(管理運営)	ガバナンス体制の整備	部・課制度の見直し Covid-19に起因する状況への対応
	安定した経営基盤の構築	収支バランスの適正化 効果的な広報活動の強化
	施設設備の整備・充実	教育研究環境の充実及び安全で快適な学習環境の実現
	人材育成・人材活用	教職員の採用計画の策定 職員の資質・能力向上

○法人本部

	項目	目標
法人全体	ガバナンス体制の整備	最適な管理運営体制の構築
	安定した経営基盤の確保	広報の活性化とブランドイメージの模索 寄付金募集のあり方の検討
	施設設備の整備・充実	省エネへの支援
法人本部	ガバナンス体制の整備	理事会・評議員会の活性化 法人諸規程の点検・整備
	安定した経営基盤の確保	目的別予算執行管理
	施設設備の整備・充実	ポロニア館省エネ計画の検討
	人材育成・人材活用	職務遂行能力の向上

3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況

(1) 法人

①はじめに—— 桐朋学園の構成など

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、同じく仙川を中心に調布市と富山市に展開する音楽部門の、三部門から成っています。男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校、桐朋高等学校があり、2,185名の児童・生徒が学んでいます。女子部門には、桐朋幼稚園（共学）、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校（普通科）、桐朋学園芸術短期大学があり、1,699名の園児・児童・生徒・学生が学んでいます。そして音楽部門は、桐朋女子高等学校（音楽科・共学）と桐朋学園大学音楽学部並びに大学院が仙川と調布に、桐朋学園大学院大学が富山市にあって、985名の生徒・学生が学んでいます。別に附属教育機関として子供のための音楽教室（全国）と桐朋オーケストラ・アカデミー（富山）があり、一貫した音楽教育の体系を形成しています。以上のように三つの部門はそれぞれにいくつかの学校組織を持ち、独自の歴史と教育の特色を持っています。

桐朋学園は、内部的には部門制を採っており、各部門は自らの教育と運営等にかんがりの裁量権を有し、主体性と責任を持って部門運営に当たっています。そのことが部門間相互理解の上に、学園全体に連携と協力、そして大きな活力を生み出しています。部門ごとに教育に特色がありますが、共通するのは、一人ひとりの人間性を大切に、こころ豊かで意欲ある、自主的・創造的な人間の育成を目指しているところです。学校法人桐朋学園の法人本部は仙川にあり、法人運営と学園事務に当たっています。

②外部状況の変化と本法人の課題と取り組み

私ども桐朋学園の男子・女子2つの部門は、2021年度創立80周年の節目を迎え、次の10年に向けて新たな1歩を踏み出しました。音楽部門は1952（昭和27）年、仙川の地に桐朋女子高等学校音楽科を開設して、今年2022年、創設70周年の年を迎えました。

3部門はこれまで、国内外で活躍する多くの卓越した人材を輩出してきましたが、独自の歴史と教育の特色を基盤とした新たな価値の創造が、これからの法人全体の課題です。

最近、社会の変化は著しく、現代日本が目指すSociety5.0では、グローバル化、デジタル化の更なる進化とともに、幸せで持続可能な社会の到来が期待されています。しかし一方で私たちは、気候変動、人口・食糧問題、社会格差など解決しなければならない多くの課題にも直面しています。その上に新型コロナウイルス感染症の世界的大流行が加わり、社会は答えのない様々な課題に満ちています。とりわけ変異し続けるコロナウイルスによって21年度は、感染の拡大が低年齢児童にまで広がりましたが、学級閉鎖、学年閉鎖の適切な判断が感染の拡大を防いできたと思われま

す。第6波の収束が見えない中、緊急事態宣言などの行動制限が全くない大型連休が過ぎました。3年ぶりに国内外の移動が増えたと報道されましたが、もうしばらく、感染対策の徹底を続けなければなりません。そして、いまでも日々の対応に苦慮しているコロナ禍は、対人指導が教育の基本であると認識する私たちに、改めてITなどデジタル技術の重要性を再認識させました。今後更に発展するITやAI技術の、開発・活用を我がものとしてはじめて、来たるべき時代を生き抜き、世界のさまざまな課題解決が可能になるのだということを、私たちをして改めて理解させたと言ってよいと思います。現代社会が重要視している多様性を本当の意味で若い人たちが受け入れ、お互いを尊重し、ハンディキャップをも含めてお互いの個性を認め合う、これこそが、他者の尊重・個性の尊重です。目の前の弱者に対し何が出来るか自らに問い、できることを積極的に働きかけて行けることこそ、今の時代にわれわれが大切にしなければならない教育であると思います。

来るべき社会では、ICT教育の充実、文系・理系に関わらず、すべての人が数理・データサイエンス等の素養を身につけ、身につけたデータ解析の力や発展を続けるAIの力を駆使し、世の中の課題を解決していける力を身につける教育が求められています。

そのためには、教科の枠を越えた探求的な学び、総合的な知性が重要だと言われています。今注目を集めるSTEAM教育とは、科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、人文社会・芸術（リベラルアーツ、Arts、Art）、数学（Mathematics）の頭文字をとったSTEAMですが、正に教科の枠を越えた、探求的、課題解決型の学びで、これからの時代に必要な学びであると認識されはじめています。

私ども桐朋学園も、これまで培った桐朋教育に新たな価値の創造の期待できる活動を積み重ねてきました。

こうした中であっても、「教育の質の向上」（魅力ある教育、優秀な教職員の確保育成、施設・設備の充実等への投資）と「健全な財務運営」（財務内容の改善、そのための人件費、経費等の削減）という、一面相反する難題への機動的な対応が桐朋学園には常に求められています。

2021年度の出発にさきがけて理事長は、各部門に対し「2021年度予算編成の基本方針」を示しました。内容は、先に述べた「教育の質の向上」と「健全な財務運営」の両立を図るために、①必要な学生・生徒数を確保し安定した収入を得ること、②質の高い教育実現のため、支出にメリハリをつけること、③一定の収支差額を確保することなどから成り、各部門はこの基本方針を踏まえて、2021年度の事業計画の策定と当初予算の編成を行い、この一年着実に履行して参りました。

男子部門・女子部門・音楽部門が共通に抱える最大の課題は、入学志願者数及び必要な入学者数を確保することです。どの部門、どの学校も、教育内容の充実に努め、コロナ禍に対応し適切な広報活動を行い、各学校の教育内容のPRに努めてきました。

以下、2021年度における各部門の主な事業について触れますが、詳細は各部門の報告を参照ください。

③男子部門の主な事業

新学習指導要領の実施に合わせ、桐朋独自の教育課程の策定に丁寧に向き合ってきたところでしたが、2020年度の小学校に続き、2021年度は中学校すべての学年で、新しいカリキュラムによる指導がスタートし、指導とその成果の検証結果が期待されます。これまで一貫して取り組んできた「学びの主体性を育てる教育」の一層の充実が意識され、生徒たちの更なる自主・自律と、生徒が自らをコントロールする「自律的な学習者の育成」に向けて、本格的な指導がスタートしました。2022年度はいよいよ高校1年生に及びます。また、東京都のグローバル人材育成事業であるJETプログラムを活用し2名の外国青年招致を続けておりましたが、このたび専任の外国語講師の雇用が条件が整い成立しました。生徒の外国語や文化の学習サポートの強化に繋がることを期待したいと思います。

④女子部門の主な事業

ICT教育推進のために当初は高校1年生に対してタブレットを持たせ、授業だけでなく様々な活用する計画でしたが、2021年度は高校1年生だけでなく、対象を中学3年生にまで拡大し、タブレット端末の活用を学びました。また、外国人講師による従来型の英会話も、端末を利用したオンラインによる外国人との1対1の会話に切り替え、好評を博しました。2022年度以降は、中学1年生からすべての学年でタブレット端末を持たせ、活用することになっていますが、その手応えは十分に把握できたと感じています。また、長年の懸案だった初等部幼稚園の預かり保育について、様々な課題が解決し2022年より始められる目処が立ちました。

⑤音楽部門の主な事業

仙川キャンパスの校舎建築計画が予定通り進み、調布キャンパスから仙川キャンパスに大学生が学びの場を移し、新しい校舎での高大一体の教育が、名実ともに再開されました。校舎内に高校生と大学生が混在し行き交う様子が戻り、そのようにして学ぶ効果にも再び期待が高まるそうです。また、2017年、成熟した音楽家を育成することを目的に開設した東京の大学院の運営は順調であり、大学院生によるTA制度も順調に成果を発揮しつつあります。TAの関わる授業での学生生徒等の学び、またTA自身の教えることによる学びについて、その成果が大いに期待されるそうです。また、認証評価の受審に向けて、万全を期して準備に臨んだ1年でもありました。

⑥法人全体として

2021年度末を以て10年以上の長きに亘って、理事として豊富な経験と識見をもって学園経営を支えてくださった羽原清雅理事と垣添忠生理事のお二人が退任されました。まずもって、お二人の長年に亘るご尽力に心から感謝申し上げます。

2021年度は、学校法人のガバナンス強化が盛んに論じられる1年でもありました。私どもも、コンプライアンス経営を意識し、ステークホルダーに対し積極的に情報を開示することは、学校法人の社会的責任を果たすことでもありと考えています。ガバナンス体制の整備についても、中期計画に於いて真っ先に触れ、常に意識し注力すべきことと捉えていますが、部門は勿論のこと、法人としても、更なる強化が必要です。また、学校運営上、公の補助金が財源としてかなりの部分を占めていることを考えると、これに対し内部監査制度を確立し、使途を明らかにすることも社会的責任を果たすことであると考え、本法人での扱いについて、早急に検討せねばなりません。

こうした外部状況の中、先に述べた「教育の質の向上」と「健全な財務運営」への対応は私どもが常に追求すべき課題といえます。いちばん大事なことは、いかに魅力的な教育を行うかであり、そのための財務的な裏付けをいかに整えていくか、であるからです。

(学校法人桐朋学園 理事長 河原 勇人)

(2) 男子部門

① 2021年度の事業の概要

2021年度も、新型コロナウイルス感染症に翻弄される一年となりました。緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置の期間外だったのは10月以降の3か月半のみといった状況で、各種行事の中止や規模縮小、クラブ活動への制約などを講じざるを得ず、さらに3学期は、感染力の強い変異株の影響もあり、学級閉鎖等の対応を余儀なくされました。

こうした1年でしたが、学習に関しては、小中高ともに、1年を通して対面による授業を行うことができ、中高は、時差登校、短縮授業等の対応を取らずに授業を進めることができました。

続いて、行事についてです。緊急事態宣言下で実施した中高の桐朋祭は、保護者を含めた一般の見学者なし、本校史上初となる生徒のみでの実施といたしました。どんな雰囲気になるのか、不安もありましたが、例年以上に多くの生徒が桐朋祭を見て回り、活気ある文化祭となりました。加えて、生徒同士で発表し見学し合うという「文化祭の原点」を実感する機会にもなったように感じます。また、蔓延防止等重点措置下の3月に実施した、小学校の発表会は、休校・学級閉鎖の影響を受け、度重なる延期、さらには、準備期間も極めて限られた状況でしたが、児童一人ひとりが休校中などにも、できること、すべきことに一生懸命に取り組んだ成果が存分に発揮され、素晴らしい出来映えでした。イレギュラーな状況だったからこそ、チャレンジしたことでの発見、具体的には、行事等の意義を再認識するとともに、児童・生徒の持つ力への信頼がいっそう高まる機会にもなったように感じます。

2021年度からの男子部門中期計画についてですが、コロナの影響を受け、十分に進められなかったものが多く、厳しい評価を下しています。例えば、中高の「大学等での研究体験を通じた知的好奇心を高める活動の実施」・「現行の語学研修・長期留学制度の見直しと新たなプログラム等の検討、実施」では、一部、オンラインを活用した実施を試みましたが、本来の形とは程遠い内容でした。小学校でも、「1学級あたりの適正定員数について検討し、クラス定員減等を検討する」は、コロナ対応に時間を取られ、十分な議論を進められませんでした。

こうした状況でも、中高では「英語科での、外国人講師直接雇用」で、採用条件を整備し、1名採用できましたし、「タブレット等の情報機器の利用方法の検討」でも、今後の進め方の大まかなスケジュール、使用機器の選定を概ね確定できました。小学校では、「タブレット端末を用いた教育実践」で、教員用のタブレットを整備し、授業等での活用に向け、具体的な検討を進めることができました。事務部では、「ネットワークシステムの更新計画」で、これまでの「校内サーバーの利用」から、クラウドの活用へと変更する計画を策定でき、「他校の事務職員人事配置計画の事例調査と現行制度・計画の見直し」で、ICT教育に係る職員増員に向け、他校の取り組みの情報収集を進めるとともに、広報活動への職員の関わりを見直しに伴い、広報経験を持つ職員を採用できました。

児童・生徒の安定的な確保に関してですが、小学校入試では、コロナ禍に端を発した私立ブームもあり、ここ10年で最多の応募者数となりました。一方、中学入試では、小学入試と同様の私立ブーム、さらに、本校でも、出願のしやすさを考慮し出願期間の延長等の改定を行ったのにも関わらず、応募者は大きく減少しました。その理由として、外部の方から「コロナの影響により、学校見学の機会の乏しさ」、「生徒の成長につながる、新たなチャレンジに関するPR不足」などの指摘を受けました。本校内でも、さらに分析を進め、改善に向けた取り組みに注力いたします。高校入試の応募者数は、3年続いた応募者減の状況は脱しましたが、一昨年の数には達しませんでした。中学と同様に、本校の魅力のさらなる発信に努めるとともに、出願のしやすさなどの改善に向け、さらなる検討を進めてまいります。なお、入学者は、小中高ともにしっかりと確保することができました。

最後に、2021年度の大学合格状況についてです。3月末の集計で、76期生の合格体験率は68%で、ここ10年間で最多、現役進学率も56%と、同2番目の数字となっています。この理由として、合格者数が、国公立大学で同2番目、私大においては最多となったことがあります。東大・東工大・一橋大・京大・国立医学部の現役合格者総数は32名で、ここ10年では平均的、ここ5年では、やや多めの数となりました。全般的には、大学入学共通テストが難化した中、粘り強く取り組んだ成果が上がったものと考えています。その表れとして、国公立大学後期での合格者数が21名と、ここ10年で2番目の多さであったことが挙げられます。今年は、中学入試を2日間実施とした最初の学年であり、大学合格状況においても注目されましたが、彼らの持つ力のある程度は示せたように感じます。

◆ 2021年度当初に打ち出した基本方針

- (1) 大きな改革を行った2016年度中学入試で入学した生徒が高3に進級する。力のある受験生の確保という点では一定の成果が挙げられていると考えているが、6年間の桐朋生活のなかでその集団をどこまで成長させ、希望する人生を切り拓く力として結実させられるかが、今後は問われていくことになる。「自律した学習者を育成する」ことを意識して策定する新教育課程の具体化を図りつつ、教育のさらなる充実を図りたい。
- (2) 新型コロナウイルス流行下での2021年度高校入試は、応募者の減少という結果となった。多くの志願者を確保するという必要上、オンラインコンテンツを活用しつつ、広報活動をより一層充実させていかなければならないが、役職者と広報委員の負担が大きくなか、これ以上の展開は難しいという実情もある。他校の例なども参考にしつつ、広報の体制を見直すための検討を進めていきたい。
- (3) 時代の流れのなかで、速やかなICT環境の整備が叫ばれているが、実際の教育の中でどう活用するかという見通しがそこになれば、意味のない支出になりかねない。一方で築30年を経た中高体育館・小学校北館の計画的な改修を進めることも大切であり、総合的な見地から施設設備の機能向上を図っていきたい。
- (4) 学費改定と補助金、高校クラス定員減計画、校舎維持管理費、新たな人事計画など、諸条件を加えた第62次中期計画試算表を作成して収支分析および収支係数改善に努め、財務の安定を保ちたい。また、学校債廃止と寄付金について具体的な検討を進める。

② 2021年度の主な事業計画及びその進捗状況

○ 桐朋中学校・高等学校

事業名 学習面を中心とした課題の克服

概要

新カリ構造図の策定と実施、さらにはその検証を行う。また、総合的な探求の時間とLHRのありかたについての検討を継続する。

進捗状況等

高校新教育課程時間割構造図の策定を行った。一方で、大学入学共通テストをはじめ、大学入試で指定される科目が未だに正式発表されていないため、高2と高3の時間割構造図については今後変更する可能性がある。また、中学、高校それぞれのLHRの置き方を決定し、今後3年間の新カリ移行に伴う中高LHRの時間のずれについての対処法を検討した。ただし、高校のLHRが今までより週1時間少なくなることから、実施しながらということになるが更なる検討を要する。

事業名 中学生の学習の定着

概要

学習習慣定着に向けた取組ならびに学習に不安を抱えた生徒への新たなサポート体制の検討を進める。

進捗状況等

新教育課程の検討と同時に、本校の目指すべき教育の姿を教員全体で確認をした。そこで同時に、学習習慣定着に向けて、我々がさらに取り組むべきことなどの検討を行った。具体的なサポート体制案はいくつか出されているが、そのための人材確保と人件費の確保策を今後さらに検討していくことになる。

事業名 英語科外国人講師の充実

概要

英語科外国人講師の雇用形態や職務内容の他校事例調査・新たな雇用形態の検討を行う。

進捗状況等

英語科外国人講師の直接雇用に向けて、新たな身分の創設、ならびに就業規則の作成、雇用契約書を作成した。雇用へ向けてのすべての内部的条件が整ったことから、2022年4月から新たな形での雇用を行うこととなった。すでに採用人事を終え、本校の望むような方に巡り合うことができた。

事業名 高校生の志望実現に向けた進路指導の充実

概要

大学等での研究体験を通じた知的好奇心を高める活動をする。

進捗状況等

昨年度に続き今年度も、新型コロナウイルスの影響により、大学等の研究施設を実際に訪れる形での活動はできなかった。一方で、卒業生による起業体験や生物系学部大学院生による研究紹介をオンラインにより実施した。現行の活動は対面での実施を基本としているため、新型コロナウイルスの影響により、十分な体制での実施とは言いがたい。これを機に、新たな形態による体験活動等の模索をしていく必要がある。

事業名 新学習指導要領下での電子情報機器の活用

概要

新学習指導要領下でタブレット等の情報機器の利用方法の検討、ならびに他校で先行している事例を研究する。またそのための使用環境を整備する。

進捗状況等

様々な研修会への参加、他校での実践を見学するなど情報収集、外部から講師を招いて電子情報機器に関する講習会の開催などを実施した。このようにして、今後に向けて本校での導入の方向性を検討した。タブレット端末等としてどの機種を使用するかなどの詳細は決定されていないが、必要な予算の確保を行った。当初の予定では、2022年度に使用環境の整備を一括して行う予定であったが、必要の度合いに応じて、3年間程度かけて、順次環境整備を行うこととした。

事業名 生徒の主体的な行動における質的な向上

概要

各行事の意義の再確認とそれに基づく生徒の活動内容の見直しをする。

進捗状況等

新教育課程の検討と同時に、今まで本校で実施してきた様々な行事の意義についても検討を行った。一方で、学校のカリキュラムではない課外での活動となるが、陸上部部員のインターハイ優勝や模擬国連で最優秀大使賞を獲得するなど際立った生徒の活躍が見られた。しかし、新型コロナウイルスの影響により、林間学校等は中止となり、新しい行事として位置づけられた高1 夏期行事も実施することができなかった。本来であれば、この高1 夏期行事は2年目となり、この行事が本来目指しているものに合致しているかどうかを評価し、必要であれば再考する時期でもあったので非常に残念である。

事業名 国際交流活動のさらなる充実

概要

現行の語学研修・長期留学制度の見直しと新たなプログラム等を検討する。

進捗状況等

コロナウイルスにより、国際交流活動に関しては厳しい状況が続いている。実際に現地を訪れての交流はできなかったが、ケンブリッジ大学海外語学研修についてはオンラインによる語学研修会を実施し、9名の生徒が参加した。国際交流プログラムの充実に図っているが、コロナウイルスの影響により、実質的に交流の機会をもつことが困難になっている。

事業名 安全・安心な学校生活の実現に向けた取組

概要

災害時だけでなく、日常生活における安全性の確認・整備を行う。具体的には、「熱中症等への対策の検討と実施」、「首都直下型地震等大規模災害へのさらなる対応検討」、「登下校を含めた、学外での自律した行動の実現」など。

進捗状況等

熱中症アラートについて教職員に周知し、注意喚起を行った。生徒救援用資料を全HRに設置した。防災・防犯マニュアルについて見直しを行い、更新した。今後はこのマニュアルがいざというときに確実に役に立たせることができるような方策を検討していく必要がある。

事業名 安定的な収入の確保

概要

今までの広報活動の検証と新体制の検討・実施・見直しを行い、入学試験応募者の安定的確保を目指す。

進捗状況等

学校案内及びHPの改訂作業は、予定通り進んでいる。今までの広報活動体制の検証を行った上で、新たな広報体制として広報部の新設を提案している。ならびにその校務分掌上の責任者を中心とした運営方法を模索している。

○桐朋学園小学校

事業名 タブレット端末を活用できる環境の整備

概要

タブレット端末を用いた本校での取組（新型コロナウイルスによる休校時のオンライン授業を含む）と他校の事例等について検証をする。また、タブレット端末を用いた教育実践と論理的思考力の育成を行う。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染防止のため、緊急事態宣言発出後は、PTA総会の準備委員会や保護者会、個人面談についてはZoomを利用して行っている。また、陽性児童が発生したクラスは1週間の学級閉鎖とし、Googleclassroomを使用して課題の提出をさせたり、Zoomを利用してオンライン授業を行ったりしている。オンライン授業やZoomでの面談等が望ましいものではないが、今まで蓄積された経験を元に、必要なときに最低限の労力でより有効なオンラインの活用方法をさらに検討をする準備が整った。

また、児童・教員が利用するタブレット端末について決定し、レンタル機と既存のタブレットを用いて学年に応じた様々な授業実践を重ねている。LAN整備が完成し、校内でのタブレット利用環境が格段に向上した。今年度、教員一人に1台の端末を貸与することができ、来年度夏以降に導入される児童用タブレットを用いた教育実践の土台を作ることができた。

事業名 外国語教育の拡充

概要

2020年度からの英語科専任化と低・中学年におけるEC（English Communicationの授業名の略称）の実施に引き続き、現在予定しているECカリキュラムのさらなる推進とその見直しを行う。

進捗状況等

高学年のみで行ってきた英語学習を1年生から実施し、2021年度は4年目に入った。計画通り、1～5年生でテキスト「Smile」の使用を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響で、JETプログラムによる外国人の派遣が遅れたが、12月に入って、ようやく5、6年生の授業で本校の英語科教員と共に授業を進めることができた。

事業名 グローバル化

概要

国際理解教育の推進。

進捗状況等

例年であると、近隣の一橋大学の留学生の方々をお招きして、国際理解教育を行っているが、やはり新型コロナウイルスの関係から、留学生の方を講師としてお招きすることが困難であった。そのため、1月23日に本校及び、桐朋女子中高等学校の卒業生である「認定NPO法人ACE」代表の岩附由香さんを講師にアジア・アフリカ地域の農業と児童労働についてお話をいただいた。

事業名 入学試験応募者の安定的確保

概要

近隣地区私学の入試動向を分析する。また、今まで学内外で行ってきた広報活動を検証し、今後の活動のあり方を検討する。

進捗状況等

都立立川国際に小学校が新設されてはじめての入試となる。また、コロナ禍での入試2年目となり、校内での対面による学校説明会や相談会が開けない状況ではあったが、オンラインを用いた説明会や受験生向けの校舎見学会を工夫して行い、出願数は2008年以降で一番多かった。立川国際の影響は、ほぼなかった。

事業名 新型コロナウイルス感染症対策の充実

概要

新型コロナウイルス感染症に対する児童の不安を解消する。学内外での基本的な感染予防対策を徹底する。また、地域の方々に温かく見守ってもらえる登下校時の態度を育成する。

進捗状況等

感染者数が多いときは、感染予防のために登校を見合わせた児童も若干いたが、概ね元気に登校できている。どのように過ごしたら感染リスクを減らせるかを繰り返し伝えることで、感染に対する不安をある程度解消できた。

昼食時の黙食、マスク着用が当たり前の生活として定着している。感染状況に応じて、教室の広さを変えたり、学年合同をクラス毎に変更したりして、三密にならないよう工夫している。児童にとっては、同じ指導の繰り返しになるが、感染予防策を徹底したことで、このような生活が習慣化されつつある。新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度も保護者が自家用車等で送迎することを認めている。登下校のマナーについては、折に触れ指導している。

事業名 児童の登下校時の安全確保

概要

最寄り駅である国立駅・谷保駅から学校までの児童の登下校の見守り体制の充実を図る。

進捗状況等

昨年度は、PTAからの申出もあり、PTAと協力しての登下校時の見守り体制を検討しようとしたが、新型コロナウイルスの影響により、それが困難となった。また、教員によるさらなる見守り体制の充実を今年度検討したが、児童の健康管理などに時間がとられ、登校時における見守り体制の今まで以上の充実は極めて困難であった。

事業名 教育補助員の充実

概要

教育補助員の役割を児童の学校生活全般と確かな学力の定着の補助と位置づけ、中・高学年への拡充を検討する。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の影響により、教育補助員についての検討はあまり進んでいない。その一方、新型コロナウイルス感染症により、教育補助員の方々に、児童の見守りを始めとして依頼する仕事は増えている。

事業名 クラス定員減

概要

「一人一人の心のすみずみにわたる教育」のより一層の充実を図るため、1学級あたりの適正定員数について検討し、クラス定員減等を検討する。

進捗状況等

公立小の35人学級や少子化が急速に進むことから、クラス定員減についての計画を検討するペースを上げるようになった。現段階で十分な議論がなされているわけではないが、第一段階として32人学級を目指したいという声が強い。これに対して反対する意見は少ないが、財務的な見通しを立てる必要があることから、検討が遅れている。

○事務部（管理運営）

事業名 諸規程の改正・整備

概要

法改正等に伴う諸規程の改正ならびに教職員必携改定へ向けての準備。

進捗状況等

新型コロナウイルスに係る特別休暇を整えたり、パートタイマーへの時間単位の年休付与を新たに規程に加えたりした。また、来年度の教職員必携改定のために、委員会の立ち上げを検討した。

事業名 学費改訂案の策定と経常費補助金分析

概要

今後の学校運営に関わる方針、優先順位の確認と、その実現のための学費改訂案の策定を行う。経常費補助金における評価係数のさらなる分析を行う。

進捗状況等

2023年度よりICT教育に係る職員を1名増員することについて検討を行ったが、次年度の継続課題となった。また、クラス定員減や適正な教員数の確保については、未だに優先順位を定めるところまで至っていない。経常費補助金については、他校の学費値上げに伴う評価係数の変化を分析した。

事業名 既存校舎維持管理計画の立案、作成

概要

これから15年程度は利用することになる既存旧校舎の維持管理計画の見直しと建替計画の策定を行う。

進捗状況等

今年度元々予定していた特別教室棟屋根防水改修工事を実施した。その上で、修繕箇所として調査した結果、修繕の必要性があるとされた特別教室棟3・4階ベランダ防水工事を引き続き今年度中に実施することとした。各校舎の点検を進める中で、今後修繕すべき箇所を修繕計画に随時落とし込んでいく。今回も見落とされていた箇所の修繕を確認したが、今年度他の箇所で行う修繕との抱き合わせで費用を安く抑えることとした。

事業名 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新

概要

新校舎建築に伴い構築したネットワークシステムの維持管理ならびに更新計画の随時更新。

進捗状況等

タブレット端末を用いた授業を実施するために、既存のネットワークから新たな生徒系ネットワークへの変更計画を策定した。また、今までは校内におけるサーバーの活用を中心としてきたが、クラウドを活用することで、ICT活用環境をより広げるため、大幅にネットワークの維持管理計画を見直した。

事業名 省エネ計画の立案、作成

概要

新校舎建築時に見送った省エネ機器導入等新たな機器導入に向けての検討をする。また、児童、生徒、教職員へのさらなる省エネに対する意識付けを行う。

進捗状況等

省エネ診断により指摘された野球場とテニスコートの照明をLEDに更新した。引き続き、室温記録表をもちいて、冷暖房使用期間は記録をつけることとした。
省エネに対する意識付けが十分に出来なかった。今後、啓発ポスターなどを掲示するなど、環境問題という視点からも生徒と協力し検討していく。

事業名 優秀な教職員の確保

概要

教員志望者が減少している現状に応じた教職員の採用人事計画を見直す。

進捗状況等

教職員採用についての学校としての基本的な姿勢を全教職員で再確認した。事務職員については、各課の課題を洗い出し、適正な人事配置を検討するために業務整理を行った。特に職員がもっと主体的に広報活動に関われるよう、即戦力となる人材を採用するべく、計画立案を行った。また、幅広い視点から人事を行うために、教員が3名採用活動に関わることにした。

事業名 人事配置計画の立案、作成

概要

他校の事務職員人事配置計画の事例調査と現行制度・計画を見直す。

進捗状況等

ICT教育に係る職員増員計画のため、明星学苑や女子部門の取り組みを調査した。充実したICT教育を行うためにどういった人員と設備が必要か、把握することが出来た。人事配置計画においては、来年度以降の検討課題とする。
人事配置計画の問題点を洗い出していく中で、職務の属人化が大きなネックとなっていることがより鮮明となった。容易に職員数を増加させることができない中で、職務の引き継ぎなども容易にできる環境を目指して、今後の体制を検討していくことになる。

事業名 教職員のスキルアップ

概要

現行の研修制度の見直し、自らの能力を高めることができる自己研鑽機会のさらなる創出を行う。

進捗状況等

今年度、研修制度の見直しを十分に行うことが出来なかった。来年度に先送りする。
夏期事務研修会において、職員の働き方や目指すべき職員像について話し合いを行った。今後、職員が必要と思われるスキルについて考えを深めた。

(3) 女子部門

① 2021年度の事業の概要

2021年度も、2020年度同様、コロナへの対応が各学校と事務局に共通した大きな事業になった1年でした。以下、コロナへの対応を中心に2021年度の様子を部署ごとにまとめます。

初等部（幼稚園、小学校）は、1年を通して登校・登園時間を平時より少し遅らせた状態で生活しました。9月、第5波がなかなか引かない中、始業予定日を迎え、夏休みを延長し、6日始業としました。そして9月中旬から徐々に一斉登校・登園に戻しました。一人で留守番が出来ない幼稚園児や低学年の児童のいる家庭には、負担をかけることになりました。10月に実施予定だった小学校運動会は、民舞のみ発表の機会を設け、お互いの学年の良さを見合いました。幼稚園のプレイデーは、学年ごとに分散して実施しました。秋以降、感染状況が落ち着いてきたところで、延期していた小学校の修学旅行を12月に実施しました。参加できなかった児童も、見学地ではオンラインで参加しました。

2022年度に向けて、幼稚園で預かり保育を実施することを決定しました。実施に向けて他園を見学したり、新たな保育者を募集したり、2021年度中に準備を進めました。

中高部は、10月末以降、登校時刻を平時のものに戻しました。2年半ぶりです。昼休みは最初の25分間は教室内で黙食の時間とし、その後、委員会活動を行うこととしました。8月中旬以降、第5波が猛威をふるう中、部活動を中止し、それに伴い文化祭も延期することとしました（文化祭は2月に実施する予定でしたが、オミクロン株の猛威の中、中止せざるを得ませんでした）。9月当初は初等部と同様、夏休みを延長し、再開後も分散登校を経て一斉登校に戻すなど、慎重に進めました。12月には高2の修学旅行を実施、1月には高2の選択者を対象とするスキー実習を実施することができました。

夏には体育館の空調整備を一步進めました。2021年度と2022年度に分けて実施するうちの21年度分は予定通り工事を終え、快適な環境となりました。

東京女子大学との連携に基づく推薦入試の第1回目を実施し、応募者8名全員の合格をいただきました。6月には東京女子大学の先生方に出張講義に来ていただき、3月にはキャンパス訪問にうかがうなど、交流を深めています。

短大部も、1年を通して感染対策を意識した活動を継続しました。短大は2年間の課程なので、2021年度に卒業した学生は在学した2年間すべてをコロナ禍の中で過ごしたことになり、学生も教員も本来の活動ができなかった悔しさは残りますが、その中でできることを模索しました。演劇専攻の2月の卒業公演のうち一つは、俳優座劇場で実施できず、3月に学内の小劇場で実施しました。9月、演劇専攻1年生は八ヶ岳高原寮で合宿するのが通例ですが、第5波の影響で実施できず、その代わりに学内で活動を充実させました。諸活動の制限は、学生募集にも影響します。そんな中、2022年度の入学生として21年度を若干上回る人数を確保することができました。大切に育てていきます。

事務局は、2021年度末の専任職員1名の退職に伴い、管財課の業務を他の課でカバーする計画を進めました。2022年度、まずは計画を進め、様々発生するだろう諸事項に対応しながら、改善していく所存です。女子部門が八ヶ岳に保有している高原寮は、2020年度から丸2年間、どの学年の合宿もすべて中止になったため、全く活用できていない状況です。感染状況が落ち着き次第活用できるように、準備をしているところです。

女子部門全体の事業として、校舎の改築が挙げられます。コロナ禍の中、意志決定に時間をかけてしまいましたが、方向性は定まりました。その方向を裏付けるために、2021年度から2022年度にかけて様々調査を行い、より精緻な計画の立案に向けて動いているところです。

② 2021年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋学園芸術短期大学

事業名 教育の改革と質保証

概要

適切な学習成果の査定のため、短期大学生調査の結果を活用し、建学の精神、教育目的の定期的点検と三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）、学習成果、アセスメント・ポリシーの定期的点検を実施する。アセスメント・ポリシーに基づくPDCAサイクルの活用と法令遵守（コンプライアンス）の徹底、単位の実質化の徹底、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーに基づく、体系的・順次的学習の促進を図る。専門科目の定期的点検、教養科目の定期的点検を行い、学位取得率の維持・向上を図る。シラバス電子化の検討を行い、演奏会、発表会、試演会、卒業公演、修了公演等による学内外への学習成果の公表に取り組む。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）の活性化を推進し、「学生による授業評価アンケート」の活用、FD研修会への出席率の向上、講師説明会への出席率の向上を図る。

他大学との連携強化については、桐朋学園大学との単位互換制度の推進、東京演劇大学連盟との連携事業の展開、俳優教育システム研究会との連携事業の展開、JUCA全国芸術系大学コンソーシアム等との連携を図る。

自己点検評価の充実のため、短期大学生調査の結果の活用、自己点検・評価報告書のホームページでの定期的公表、内部質保証ループリックの活用、高等学校関係者等の意見聴取、認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認を行う。

情報公開の推進にあたっては、日本私立短期大学協会ガバナンス・コードに基づき、教育情報を公表するとともに、授業評価アンケート、自己評価アンケート等の結果の公表を行う。

進捗状況等

2019年度より一般財団法人大学・短期大学基準協会が年に1回実施する短期大学生調査に参加し、学習成果の査定に活用している。建学の精神と教育目的が、時代・社会のニーズと結びついているか、原則5年毎に点検を行う。2020年度認証評価の際に「特に優れた試み」として評価された学外に向けた活動を、2021年度は感染対策を講じた上で、再開することができた。

アセスメント・ポリシーに基づきPDCAサイクルを活用し、自己点検・評価活動を行い、課題と改善計画を明確にした。学校教育法、短期大学設置基準等の法令の遵守に努めているが、補助金申請に関わって、一部の根拠資料が保存されていないことが判明した。

適正な授業回数の確保と授業時間外の学習の充実を図り、履修登録単位数の上限を半期20単位と定め、CAP制を適切に運用している。原則対面授業としながら、感染状況に応じてオンライン授業も併用し、適正な授業回数の確保に努めた。

「授業評価アンケート」の結果を活用し、授業科目の点検を毎年行っているが、演劇専攻の専門科目は満足度93.4%であるが、さらなる充実を図り、2022年度に向けて舞台製作実習等を新設する。教養科目は2021年度見直しを行い、満足度は89.9%である。

学位取得率に関して、芸術科は在籍者の90%以上が短期大学士を、専攻科は大学改革支援・学位授与機構への申請者の80%以上が学士を取得することをめざしており、2021年度も目標値を達成した。

「学生による授業評価アンケート」をオンラインで実施したところ、前期は回答率55.5%という結果となったため、後期は授業内に回答の機会を設けた。FD研修会（5月24日、6月28日開催）はコロナ禍の中、当日出席できない教員がオンデマンドで視聴できるようにするなどの対策を行った。講師説明会も同様の対策をとっている。

桐朋学園大学との単位互換では、前期は延べ69名の短大生、23名の学部生から、後期は延べ109名の短大生、3名の学部生から申し込みがあり、ほぼ希望通りの履修が認められている。東京演劇大学連盟との連携事業では、昨年度延期となった共同製作公演「あたらしい憲法のはなし3」が9月に東京芸術劇場で開催され、本学から3名の学生が参加した。

2020年度短期大学調査結果を分析し、自己点検・評価報告書に反映、結果をウェブサイトに掲載した。大学・短期大学基準協会による内部質保証ループリックを活用し、自己点検・評価活動を行っている。高等学校関係者等への意見聴取は、高校訪問等の機会に行った。

認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認は、自己点検・評価委員会を中心に、進捗状況を確認している。教育情報の公表は、日本私立短期大学協会ガバナンスコードに基づいて公開しているが、経年比較可能な形で公表されていない部分については見直しを行った。

事業名 学生募集—入試志願者の安定的確保

概要

アドミッション・ポリシーに基づく学生募集を推進し、芸術科入学定員の学生数確保及び専攻科入学定員の学生数確保に努める。オープンキャンパス等への参加者数増加に向けた工夫を図るとともにウェブ出願に関する具体的検討も開始する。広報活動の強化に向けて、ホームページの活用、SNSの活用、活躍する卒業生・在学生の紹介に取り組む。

進捗状況等

2021年度の入学者数は、芸術科が入学定員（120名）に対し、音楽専攻37名、演劇専攻66名、入学定員充足率は85%に、専攻科は入学定員（各専攻20名）に対し、音楽専攻11名、演劇専攻22名、入学定員充足率は83%にとどまった。オープンキャンパス等への参加者数は、コロナ禍より以前に設定した評価指標は延参加人数400名。新型コロナウイルス感染状況に応じて、各種行事をオンラインと来学（予約制）で実施し、昨年度より2割前後増加している。ウェブ出願に関する検討は年度内に業者から話を聞く機会を持つ予定であったが実現できていない。

広報活動に関して「本学を知ったきっかけ」はホームページが最多であり、学生募集において重要性を増しており、2022年度のホームページのリニューアルに向けて協議が進められている。また、twitter, Facebook, Line, Instagram等でも情報を発信した。本学の教育目的を明確に示すためにも、卒業生・在学生の活躍を積極的に紹介。インタビュー記事のホームページ掲載も開始した。

事業名 将来構想

概要

短期大学将来構想の策定を図るため、芸術教育の将来像の検討を行うとともに、人事計画案、財務（事業活動収支）計画案、施設・設備の整備案の検討に取り組み、将来構想実現に向けた準備を始める。

進捗状況等

将来構想委員会を中心に短大の将来像を検討している。カリキュラムポリシーに基づく人事計画案を作成し、2022年度に向けて、常勤講師1名、特任教員3名の採用、8名の昇任を決めた。また、短大の将来のあり方を見据え、適切な定員管理とそれに見合った経費に基づく財務（事業活動収支）計画案の検討も進んでいる。施設・設備の整備に関しては、現在、女子部門の建築準備委員会が中心となって進めている校舎の改築・改修の計画を見守りつつ、教育環境委員会を中心に様々な課題に取り組んでいる。将来構想実現に向けて、女子部門と音楽部門の間で協議の場が設けられることになり、短大側の委員を選出した。

○桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

事業名 新教育課程の全面实施、探究型授業の整備・設置、こころの健康の充実

概要

女子中高の特性を活かした新教育課程を編成し、実施する。
正課のプログラムのみならず、課外活動も通して、女子中高が50年間掲げているモットー「こころの健康 からだの健康」の更なる充実を図る。
①探究型・教科横断型の学習として、新たな講座（仮称：ダヴィンチ講座）をBブロック（中3・高1）に設置し、その成果を文化祭で一人ひとり発表する。
②「ことばの力」を育てるために、書く力や発表力の育成、授業中の学び合いなど、主体的・協働的な学習をより一層充実させる。
③本校オリジナルの副教材を活用した中学道徳の実施。
④発表学習を通して、聞く力、聞く姿勢、意見を尊重する姿勢を育てる。
⑤生徒の主体性・協働性を育てるために、活発な学校行事、部活動を維持、推進する。

進捗状況等

中学の新課程実施と次年度高校新課程実施に向けて、数学の自作問題集の改訂や従来中3と高1で実施してきた言語技術教育を中3の1年間でコンパクトに実施するため、カリキュラムの改訂にあたった。教科横断型の新たな講座に関し、制度設計を進めた。言語技術のコンパクト実施は概ね実施できた。自作問題集の改訂はやや遅れているものの、予算をにらみながら進めている。教科横断型の講座は、22年度から当面は1学年のみでの実施とし、中3と高1の2学年実施に向けて更に検討を進めたが、クリアすべき課題が多く、スムーズに進んでいるとは言えない。
前年度改訂された副教材と教科書を活用し、話し合う道徳を進めた。中3校長面接の際も、道徳の時間を通じて自分の意見を言えるようになったという声が聞こえてきた。

事業名 進路指導の充実

概要

個々人の希望する進路を実現する。
①学校行事などで積んだ多くの経験を文章化してポートフォリオに蓄積する。
②学習時間をしっかり確保するために、学校内での学習場所を用意する。
③進路アドバイザーを常時確保し、AO入試、推薦入試の準備にあたる。
④オンラインも活用し、学習支援のシステムを整備する。

進捗状況等

第5波が収束するまでは放課後や夏休みの活動は制限せざるを得なかったが、10月以降、18時までは自習環境を整えた。オンライン学習ツールを紹介し、学校を通して団体契約し、割安な価格で提供した。コロナ禍で先が見通せない中、手探りで進めてきた。放課後の学習支援についても開始時期が確定できず、検討がなかなか進められない状況であった。

事業名 ICT機器の活用と危険性の認識

概要

・個々人に持たせるタブレット端末の活用を図る。
①中学3年生からタブレット端末を持たせ、授業にとどまらずあらゆる面で活用する。今後、文科省のGIGAスクール構想の進捗状況も確認しながら、タブレット導入学年について検討する。
・便利な面の裏面に潜む危険性についての認識を持たせる。
①リテラシーを学び、感情に流されずに使用できるタフさを身につける。

進捗状況等

2021年度は中3と高1でタブレット端末を導入し、活用を進めた。従来高1で行っていた外国人講師による英会話の時間を1対1のオンライン英会話に切り替え、会話を増やした。今年度の会議を通じて、2022年度以降中学1年生より全員にタブレット端末を持たせることを決定した。高1で導入した1対1のオンライン英会話は、導入当初こそ不具合があったが、次第に解消し、生徒の会話量も明らかに増え、好評であった。

事業名 海外研修プログラムの充実

概要

- 世界に触れる経験を、一人でも多くの生徒に準備する。
- ①米国夏季研修を、参加人数に制限のない豪州・シンガポール研修に切り替える。
 - ②2019年度より参加している中国への研修でよい経験を積む（2021年度再開予定）。

進捗状況等

コロナの影響で研修は実施できず。次年度から切り替える豪州・シンガポール研修に向けて準備を進めた。コロナ禍の中、相手国への入国が容易でないこと、入国できたとしても参加予定の授業がオンラインであることを考えると、中止はやむを得ない選択である。

事業名 危機管理対応の充実

概要

- 東日本大震災、新型コロナウイルス対応を経て得た経験・知見をまとめ、今後に生かす。
- ①記録を整理し、残す
 - ②事務局と連携し、非常時に備えて備蓄しているものの過不足などを確認すると共に、機器の操作に慣れる。
 - ③夏場の熱中症対策のためにも、体育館の空調設備を整備する。

進捗状況等

体育館の空調整備を2年計画で実施することとし、その1年目の工事を行った。調布市とも協定を結び、水害時の避難所としても活用することとなった。空調未整備であった3つの体育館のうち、1つの空調整備を終えた。快適さは雲泥の差である。備蓄食料の入れ替えなどを行ったが、避難訓練はコロナ禍の中、縮小したものを実施するに留まった。

事業名 安定的な収入の確保

概要

- ・入学試験応募者の安定的確保
 - ①広報の3ツール（説明会、パンフレット、ホームページ）の検証、改善
 - ②入学試験の検証、改善
 - ③地元を中心とした公立中学校、学習塾への広報活動の充実
- ・寄付金サイトの活用
 - ①「寄付を受ける」から「寄付を募る」への変換を図り、積極的にアピールする。広報の3ツール（説明会、パンフレット、ホームページ）の検証、改善

進捗状況等

説明会は出席者数を限定し、座席間隔をあけて着席できるよう工夫しながら、同じ説明会を何回か繰り返し行い、集客を図った。近隣の中学回りを今年度も継続した。寄付金サイトを入学説明会や保護者会で紹介し、お願いした。新しく刷新したパンフレットを使い、広報活動に当たった。コロナ禍の中、学校説明会は参加者を少数に限定して対面で行った。どの説明会も予約は満席であった。それが志願者の増加につながったと考えている。寄付については機会を見つけて訴えたが、新規に開拓する難しさを感じている。

○桐朋小学校・桐朋幼稚園

事業名 施設・整備の拡充

概要

- 2021年度は、コロナのために休校、時差登校などを行う。3密を避け、マスク着用をする。今後も複数年に渡り、コロナの影響が大きいと考える。以前にも増して、命と健康を守り、充実した教育活動をすすめていく。
- ①健康教育の推進や消毒など安全対策の実施
 - ②コロナの特徴を理解し、感染しない、感染をひろげないようにする
 - ③校外学習の実施が難しい場合、インターネットを使用した教育活動も充実させる
 - ④教員のインターネットを使用した教育活動の研修
 - ⑤図書室より郵送貸し出しの取り組みを充実させる
 - ⑥家庭とインターネットでつながる。1～3年生は、保護者付き添いのもとで機器を扱う。4～6年生は、自分で扱えるオンライン環境をつくる。

進捗状況等

2021年度、コロナ感染防止のため、時差登校、臨時休校を実施した。3密を避け、マスクを着用、手洗い、消毒などを徹底した。家庭と協力し、命と健康を守り、教育活動をすすめた。

- ①担任、養護教諭を中心に健康教育を推進した。食事、睡眠、運動を大切に免疫力をつけることを促した。
- ②コロナの特徴（飛沫感染、接触感染）を子どもと学び、理解し、3密を避け、マスク着用、手洗いを徹底した。
- ③校外学習が実施できない時期は、積極的にインターネットを使用した教育活動を行った。平和学習では、広島からの講師派遣を依頼し、学んだ。
- ④教員のインターネットを使用した研修を行い、9月、1月の休校期間にホームルーム、学習をすすめた。
- ⑤長期間の休校はなく、図書室より郵送貸出をする機会はいくらなかった。
- ⑥9月、1月の休校期間、家庭とインターネットでつながり、ホームルーム、学習をすすめた。

事業名 グローバル化

概要

子どもたちが、これからの未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できる人へ育む。2020年度より実施した「地球市民の時間」（多文化共生教育、国際理解教育、外国語の3つの柱）を充実させる。

- ①中学年では、英語圏のみならず、自分の日常の環境にない言語、習慣、文化をもって生活している方々と触れ合うことで、異文化との出会いから興味を深める。
- ②高学年では、中学年で学習したことを踏まえ、世界の子どもの生活、習慣、文化などを切り口に、戦争・紛争と平和、人権、環境の問題など現代的課題やSDGsの学びと、それらを学ぶことの意味を深めていく。
- ③外国語、英語の学習では、クラスを2分割し、少人数で学ぶ。英語を母国語とする外国人講師とふれあい、コミュニケーションの楽しさを経験する。

進捗状況等

2020年度より開始した「地球市民の時間」（多文化共生教育、国際理解教育、外国語）の実践をすすめた。子どもたちが、現在と未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できるよう根っこを育てた。

- ①中学年では、「地球市民の時間」の授業研究を実施した。
- ②高学年では、「地球市民の時間」の授業研究を実施した。夏季初等部全体研究会でも、高学年「地球市民の時間」の実践を学ぶ機会を設けた。
- ③外国語科の講師と授業研究を行い、カリキュラムを築いてきた。1学級を2分割し、少人数（18名）での学習を充実させた。

事業名 安定的な収入の確保

概要

私立学校は、建学の精神、教育の理念、目標を実現していくことが使命である。教育の理想を掲げ、手を携えて実現しようという保護者の方たちと協働していく。

- ①コロナ禍での定員確保をすすめる。他私学との合同相談会など中止が続き、対面での学校説明会や体験会なども開催が難しい。オンラインでの説明会や相談会の充実を図る。
- ②ホームページの内容を充実させる。
- ③広報の充実とともに、入試改革をすすめ、応募者を増やす。
- ④桐朋幼稚園で幼児期を丁寧に過ごし、成長した子どもたちが桐朋小学校に入学してくるよう、幼小の連携した教育を充実させる。

進捗状況等

安定的な収入の確保のためには、応募者を増やす取り組みが必要。ホームページでの定期的な学校紹介、学校説明会（対面、オンライン）をすすめた。

- ①対面での説明会、オンラインでの説明会、個別相談会を行った。毎回、満席となった。
- ②週に1度以上の割合で、ホームページにおいて教育活動を伝えた。
- ③①②を進め、男女とも応募者を増やした。また、コロナ禍のため、2次制から1次制にし、審査内容も改革した。
- ④幼小の連携として、夏季初等部研究会で、幼稚園3年保育の取り組みを研究した。3学期は、幼稚園低学年の合同研究会をもった。小学校主催の幼稚園内部進学者説明会を丁寧にいった。全員が桐朋小学校へ進学をした。

事業名 建築計画

概要

桐朋学園は、一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するという、ヒューマニズムに立つ人間教育を理念に掲げている。その理念を実現する建築をすすめる。目ざすものとして、①遊びと学びの共生、②自然との共生、③多様な人々（異年齢、地域、社会）との共生、園舎、校舎は、自発的、協働的な学びを生むもの（調べる、作る、遊び、憩う、表現する、発信する、交流する場）にしたい。自然の中で、地球市民として育つ環境を（豊かな自然の中で遊ぶ、学ぶ。循環型の施設、地域の環境、地球の未来を考える。）

進捗状況等

桐朋学園の教育理念、私たちの大切にしたい教育実践から建築の具体化をすすめたいと考えたが、そうした時間がとれなかった。

①～③について、実践と研究の側面から建築を具体的に検討したいと考えたが、そうした時間がとれなかった。建築を考えるうえで、他園、他校見学を申し込んだものの、コロナ禍のために実現できていない。子どもの生育環境と建築を考えられている仙田満氏と学習をすすめた。

建築の方向性については決定したが、建築を研究面から議論し、具体化することができなかった。

○事務局（管理運営）

事業名 安定した財務基盤の構築

概要

物品購入の一元化や外部委託の導入、ICTの活用等で事務業務の効率化に取り組むとともに、LEDなど環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入で管理経費の一層の削減を図る。

入学定員の獲得で学生納付金の安定的な確保に努めるとともに、短期大学は国・政府系機関の競争的資金（補助金）の獲得、高校以下は東京都等の各種助成の活用、部門全体では寄付金の募集拡大など積極的な外部資金の獲得を図る。また、安全かつ効果的な資産運用についても研究を進めていく。

進捗状況等

予算執行にあたる部署・職員のコスト管理に対する意識が高まり、業者との契約内容の見直し等に生かされている。また、より効率的な物品購入に向け、EC（electronic commerce）の活用を拡大した。

新型コロナウイルス感染症拡大で地方からの受験生が減少した影響もあり短期大学の学生募集は苦戦が続いた。学生納付金の確保が厳しい状況の中、より多くの補助金や寄付金の獲得が求められるにもかかわらず、私学事業団の調査で短期大学の2020年度経常費補助金の交付申請に誤りがあったことがわかり、補助金の返還を求められる事態となった。あつてはならないミスであり、事務局の体制を見直し、再発防止に努める。資産運用については、銀行・信託銀行・証券会社から基本的な情報の収集を行ったが、現在の法人の運用ルール枠内で、利率や期間等の条件に当てはまる商品を探すことは困難であった。

事業名 人材育成・人材活用

概要

事務局の効率的な業務運営を前提とした専任職員、定年後の再任用職員、嘱託職員及び定時職員、派遣職員の配置を行うとともに、外部人材の登用などの可能性も含め、各学校の目的達成のための人員体制を整備する。職員に必要な教育研究活動支援等の知識及び技能習得や、職員の能力及び資質を向上させるためのSD（Staff Development）活動などの研修を実施する。

事務処理の簡素化、外部委託の活用、情報化の推進等によって効率化・合理化を図るとともに、業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。

進捗状況等

2021年4月1日付で2名の新任者が事務局に加った。一方で施設設備面の管理を担っていた管財課職員の2021年度末退職が決まり、2022年度から管財課業務を複数の課で分担して引き継ぐこととした。事務局として大きな組織変更である。その検討の過程で一部業務の外注化などを確認した。

SD活動についてはコロナ禍の影響もあり盛況とはいえないが、複数の職員が外部会場での研修、オンラインでの研修に参加した。また短期大学と共催のFD・SD研修会にも多くの職員が参加した。

事業名 施設設備の整備・拡充

概要

良好な教育環境が保持されるよう既存施設の適切な維持・管理を行う。また、施設設備の整備・更新にあたっては、学科の改編や入学定員や教職員数の見直しなどを考慮した中長期的な整備計画を策定する。

学内ネットワークシステムや事務局管理の各種システムについては、セキュリティ上の観点から適切に保守および更新を行う。

進捗状況等

2021年10月の全学教職員会議後の意志確認の結果を受け、校舎の全面改修案の検討を進めることが部門内で決裁された。個々の教職員・現場レベルでの研究が進み、今後女子部門全体のあり方が検討されることになる。コロナ禍の影響もあり、方向性の確認に時間を要した。計画の具体化を進めている段階である。

セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られている。専任教職員に一人1台のPCが行き渡る環境が整ったことにより、学内ネットワークをより安全確実に維持できるよう体制を整える。

事業名 ガバナンス体制の整備

概要

災害等緊急時の対応については、常に最新の知見を獲得、防災訓練時にその実証を行い、そこで得た評価を次の訓練時に活かす流れを確立する。

定期健康診断やストレスチェックの結果が教職員の健康管理に適切に活用されるよう衛生委員会、産業医、カウンセラー、保健室と協力して対処する体制を整える。また、各種ハラスメントを防止や労働環境改善のための研修等も積極的に実施する。

セキュリティ対策を重視し、個人情報の適正な管理と、Webサイト等の安全性確保を徹底する。

省エネルギー、省資源化への取り組みとして、LEDなどの環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入のほか、節電節水を奨励し、光熱水費等の節減を図る。

進捗状況等

2021年度もコロナ禍の影響で防災訓練の中止や規模の縮小が相次いだ。感染症の拡大防止対策への知見は深まった。調布市との間で、風水害時の避難場所としての施設利用に関する協定を締結した。

2021年4月からの勤怠管理システム稼働により、労働実態の客観的な把握が行われることとなった。また、産業医の位置付け等についても検討が進み、2022年度から新たな衛生委員会の体制が整うこととなった。

セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られている。在宅勤務する際のセキュリティ対策については、在宅勤務自体の検討が仕切り直しとなったため進んでいない。

LED化は着実に進んでいる。2021年4月から稼働した勤怠管理システムの一部の機能、以前から使用しているグループウェアのワークフローの機能により、事務局内においてはペーパーレス化が進みつつある。

(4) 音楽部門

① 2021年度の事業の概要

2021年度は、前年度に行えなかったことをやり直すべくスタートした年度でした。

年度当初、学部や大学院の授業は調布校舎で、高校の授業は仙川校舎で、いずれも通常通りの対面の形で授業が始まりました。しかしながら、オリンピック東京大会の開催が近くなるにつれて、新型コロナウイルス感染症の状況が徐々に悪化し、オリンピック東京大会の運営が様々な変化を余儀なくされたのと同様、学校現場でもいくつかの授業や行事の実施に変更が必要となりました。音楽部門でも、大学の授業の一部を遠隔に切り替えることとなりましたが、昨年度とは異なり、遠隔対応自体にはある程度経験値があったため、その切り替えは比較的スムーズにできたと考えております。それでも授業を行う教員、また授業を受ける学生生徒には、負担をかけることとなりました。

後期から目論んでいた学部授業の仙川校舎での実施も、残念ながら年度の後半から振り返したオミクロン株蔓延の影響などを受け、次年度へ先送りとなりました。学部の授業が仙川校舎で対面の形で始まれば、以前のような高校と大学が一体となった活気ある教育の場が仙川に実現することになり、それを楽しみにしていただけに残念でした。また、短大との連携授業も、学部の仙川校舎での授業開始によって、以前のように盛んになると思い描いていたのですが、それも先送りとなりました。

2021年度固有のこととして、桐朋学園宗次ホールのオープニング・シリーズ「伝統と革新一音と共に、木と共に」の企画を実施しました。演奏者は、教員や学生を中心に、サイトウ・キネン、ウィーン・フィルのカルテットなど、学内外、国内外の多彩な音楽家によるおよそ30もの演奏会シリーズでした。来場者の方々には新築の木造のホールの響きを楽しんで頂き、学び舎としてのホール空間を味わって頂けたものと思います。

子供のための音楽教室は、高校や大学と異なり、月ごとでの生徒の出入りが起こります。それ故に、昨年度のように国の方針で全国の学校が授業を停止するような状況になれば、その影響を真っ先に受けてしまいます。2021年度は、色々な工夫をして何らかの形で教室での教育が途絶えないようにし、その結果、収支を全体としては黒字に戻すことができました。どのような形であっても「授業を休みにはしない」、「教育を続ける」という各教室の努力の賜物であると思っています。

富山キャンパスで行っている大学院大学やオーケストラ・アカデミーの運営に関しても、やはり新型コロナの影響は避けられませんでした。富山においては、教員や学生の移動を自粛したこともあり、前期における対面の授業やレッスンが行いにくい状況があり、それが後期に皺寄せの形となりました。カリキュラムの重要な要素であるコンチェルト実習やリサイタルの実施も、前期分を後期に統合する形での対応となったため、例年になく苦労がありました。オーケストラ・アカデミーに関しても、やはり対面と遠隔の組み合わせでレッスンが行われましたし、公演の一部は中止や延期を余儀なくされましたが、全体としては、ほぼ予定通りの活動を行えました。仙川の桐朋学園宗次ホールのオープニング・シリーズへの参加も予定通り行えたことは、2021年度の特記事項と言えるでしょう。残念ながら、オーケストラへの入団・採用状況は2件報告があったにとどまりました。コロナの影響でオーディションそのものが少なかった状況下では、致し方ないところです。芸術短期大学との連携は、普段行われている教務関連の連絡会の他に、リポジトリに関する協議を両図書館の間で持ちました。また、教務や図書館以外の協力を検討するための話合いの場を持てたことも有意義でした。

新校舎の建築ほど大きなプロジェクトではありませんが、図書館として利用している調布2号館を売却して、図書館機能を調布1号館と仙川の短大校舎4階に移設しました。図書館チームなど関係者の工夫と努力のおかげで、図書館の閉館期間を可能な限り短くして、利用者の迷惑にならないように一連の移設が終わりました。若干ですが調布駅からのアクセスが改善し、また、膨大な図書資料の一部とはいえ、開架式で利用できるようになったなど、利用者にとっての利便性が向上しました。

業務の電算化は、まずは教務関連から着手しました。音楽部門では諸々の会議資料を紙からデータに切り替えておりますが、学生生徒の履修登録や教員からの成績報告など、教務に関しては、紙ベースでの業務が続いております。授業の遠隔実施も同様ですが、オンライン上で色々なことができるようにすることが必須であることを実感したこの数年、教務の電算化に関して、歩みは必ずしも速くはないのですが、着実に進めることができました。

2021年度に音楽部門の掲げた主な事業計画の項目は

- ・新校舎の運用開始
- ・音楽教室の収支の改善
- ・桐朋学園大学大学院の充実
- ・富山キャンパスと仙川キャンパスの連携強化
- ・芸術短期大学との連携強化
- ・調布2号館（図書館）の売却と、図書館機能の移設
- ・教務の電算化
- ・教職員の教育研究活動への助成

でした。そして、事業計画には挙げませんでしたが、事務局に関する動きを加え、それぞれの概要と進捗状況を以下に簡潔に記します。

②2021年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋女子高等学校音楽科・桐朋学園大学音楽学部

事業名 新校舎の運用開始

【概要】

完成した新校舎（H館）において、調布で行われていた学部授業を運営する。H館のホールにおいて、オープニング・シリーズと銘打って演奏会を実施する。

【進捗状況等】

当初からスムーズな運用開始を目指して、仙川での学部の授業の本格的な開始を後期からとしていた。

年度当初、ある程度、落ち着きを見せていた新型コロナウイルス感染症の状況もあり、新学期は高校・大学ともに全授業対面の授業でスタートした。しかし、5月の中頃からは、学部のいわゆる座学系の授業の多くが遠隔授業となり、従って後期から仙川でスタートできた対面での学部授業は、ソルフェージュ授業、合奏など授業全体のおよそ7割にとどまった。

桐朋学園宗次ホールのオープニング・シリーズのプログラムは、大小さまざまな規模の演奏会を企画し、国外からの出演者の公演を含め、ほぼ予定通り約30の演奏会を無事に行うことができた。

○桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

事業名 音楽教室の収支の改善

【概要】

前年度、授業の休講にともなって授業料を返還する必要が生じるなどにより、悪化した収支を改善する。

【進捗状況等】

前年度、新型コロナウイルス感染症の影響から収支を大きく悪化させてしまった音楽教室の運営であったが、2021年度は、いくつかの教室で収支の改善が見られ、コロナ前のレベルには達しなかったものの、音楽教室全体としては黒字経営となった。

○桐朋学園大学院大学

事業名 桐朋学園大学大学院の充実

【概要】

東京の大学院は順調に運営されている。そのさらなる充実のため、専攻の検討やカリキュラム、制度の点検、改善を行う。

【進捗状況等】

順調に運営されている東京の大学院は、入学試験の志願者数も多く、今年度に行われた2022年度入試では、修士課程（定員45名）の志願者71名、合格者65名、博士後期課程（定員3名）の志願者13名、合格者4名であった。新たな専攻の設置の議論は行われなかったが、学部4年間課程の後の修士課程の在り方を踏まえたコースの検討が行われ、継続協議となった。

TA制度は順調に運営されており、今年度は総数255コマの授業にTAがかかわった。その点検や改善などに関してはあまり議論されず、今後の課題とする。

○桐朋学園大学大学院（仙川）と桐朋学園大学大学院（富山）

事業名 富山キャンパスと仙川キャンパスの連携強化

【概要】

共に大学の学士課程の後の教育を担う仙川キャンパスと富山キャンパスの情報を共有し、連携を強化する。

【進捗状況等】

東京と富山の間の行き来が困難な中であって、ZOOMを用いた会議がスムーズに行われた。ただし、face to faceの形でしか成り立たないコミュニケーションもあり、以前に行われていたような会議の前後でのちょっとした会話による情報交換はあまり行えなかった。両キャンパスの会議におけるそれぞれの運営報告も、これまで通りの形にとどまり、今後は、どのようなことがもう一方のキャンパスで行われているのかを、より分かりやすく報告できるよう、さらなる工夫をした。

○短期大学との関連

事業名 桐朋学園芸術短期大学との連携強化

【概要】

教務レベル、図書館レベルなど、これまでの連携・協力のみならず、さらに大きな次元での連携や協力の在り方を考える。

【進捗状況等】

教務関係の教職員同士の情報交換、リポジトリに関する両図書館の協議など、これまで通りの連携協力を行いました。2022年度以降のより広い事柄に関する短期大学との連携強化について、検討を始めるための第一歩となるミーティングを持つことができた。

○調布2号館

事業名 調布2号館の売却と図書館機能の移設

【概要】

調布2号館を売却して、そこにある図書館としての機能を調布1号館及び仙川校地の短大校舎4階に移設する。

【進捗状況等】

調布2号館（図書館）を売却し、その機能を、調布1号館に移設した。また、仙川校地での本格的な学部授業の開始に合わせて、仙川の短大校舎4階の図書スペースの改築も行った。調布1号館のリフォームについては、新型コロナウイルス感染症の影響で世界的に半導体不足となっている影響のため、照明器具などの工事が未着工のままになったが、書架、盗難防止装置、自動貸し出し機の設置は年度内に終え、図書館の機能を無事に移転できた。

○教務関連

事業名 教務の電算化

【概要】

現在、紙ベース中心で行われている教務関連の業務を電算化して、業務の効率を向上する。

【進捗状況等】

電算化のための業者を選定し、どのようなモデルで行うか、実質的なカスタマイズをどうするかなどのパッケージングが終わり、2022年度からの部分的な運用開始に向けて作業を進めた。
教務の電算化はまだまだ進行形の状態であるが、着実に前進している。

○教育研究活動助成

事業名 教職員の教育研究活動への助成

【概要】

教職員の教育研究活動に対して、総額100万円の予算で助成を行う。

【進捗状況等】

前年度に募集した「桐朋学園音楽部門70周年記念助成」は、応募のあったプロジェクトのうち、10件（ピアノ部会3件、弦楽器部会3件、作曲理論部会2件、富山キャンパス1件、図書館1件）が採用され、そのうち6件が2021年度に実施された。残りの4件は、2021年度～2022年度にかけて実施されるプロジェクトとなっている。

○事務局（管理運営）

事業名 部・課制度の見直し

【概要】

事務局の部・課制を廃止してグループ・チーム制を導入する。

【進捗状況等】

2021年4月より事務局組織の構成を教学グループ（教務チーム、学生支援チーム、広報チーム、演奏会チーム、音楽教室チーム、図書館チーム）、管理グループ（総務チーム、財務チーム）、富山グループ（総務チーム、教学チーム）の3グループ・10チーム制、学生相談室、保健室とした。

各グループにはグループマネージャー、各チームにはチームリーダーをおき、グループ内での協力体制の強化、業務の属人化を解消する組織を目指し改編した。

事業名 広報活動の強化

【概要】

より効果的な広報活動を充実させ、学生・生徒募集を図る。

【進捗状況等】

桐朋学園音楽部門仙川キャンパス広報・募集対策委員会を毎月開催し、音楽部門のブランディングに関する事項、広報に関する事項、学生・生徒の募集に関する事項を検討した。

音楽雑誌、新聞、広報誌等の紙媒体とWeb上での広報を効果的に使い分け、音楽教室から高校、大学、大学院まで幅広く学生・生徒数増に繋げるための一環として音楽教室のホームページをリニューアルした。

事業名 職員の資質・能力向上

【概要】

研修会・講習会等に積極的に参加し、法令、諸規程、政策、内外の諸情勢を学ぶ。

【進捗状況等】

コロナ禍で研修会・講習会の開催自体少なかったが、出来る限りオンラインで参加した。そこで得た情報は他の職員にフィードバックし、事務職員全体のスキルアップに繋げた。

事業名 多様かつ効率的な事務システムの導入

【概要】

給与・会計システムをリプレイスする。

【進捗状況等】

2022年度導入に向け、現行システムをより効率化するためにシステム業者と具体的な仕様を打ち合わせた。

(5) 法人本部

① 2021年度の事業の概要

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年でした。そのような中であっても、法人本部は、十分とは言えないまでも、その最も重要な課題には対応できたと考えます。すなわち、理事会・評議員会の事務局としての役割、法人全体の予算・決算のとりまとめ等、です。

会議室の狭隘さは如何ともしがたく、オンラインによる参加をご諒解いただいた方もございました。しかし、開催場所に一堂に会するのと同様の、相互に十分な議論を行うことができる環境は確保できたものと考えます。また、会場又はオンラインいずれの参加形態にも対応したことにより、参加者各人の意思の尊重と感染リスクの低減に寄与できたと考えます。

学校法人を取り巻く環境は一段と厳しさを増し、その制度に改革を促す議論が今、盛んに行われています。主な論点は各機関の役割の明確化ですが、その背景には、意思決定と業務執行の未分離、業務執行に対する監督機能の不十分さがあると思われます。この問題について、本法人では本格的な議論をしてきませんでした。最大の反省点です。

② 2021年度主な事業計画及びその進捗状況

【法人全体】

事業名 ガバナンス体制の整備—最適な管理運営体制の構築

概要

法人本部の役割についてコンセンサスを形成し、法人全体の課題への取り組み方を検討する。

進捗状況等

東京教育大学との関係解消を機に、法人組織に関する規程の幾つかが整備され、本法人は独立採算制の足場を固めていったことを理解した。今後は、整備された規程の一つ「本部事務細則」の原案作成過程を調べ、法人本部のあり方を考える足がかりとする。

事業名 安定した経営基盤の確保—広報の活性化とブランドイメージの模索

概要

各部門各学校の情報を活用した、より効果的な広報を研究する。法人のブランドイメージに活用できるシーズを各部門各学校の資史料から調査、検討する。

進捗状況等

PR素材探求の前段として、各部門の文書保存規程も参考に、文書・資料の保存・廃棄のルールを作成した。

事業名 施設設備の整備・充実—省エネへの支援

概要

環境自主行動計画/管理標準に基づきCO₂排出量の削減に取り組む。各部門の省エネへの支援策を検討する。

進捗状況等

担当者会議を3回、責任者を交えた会議を2回それぞれ開き、各部門のエネルギー使用量と管理標準遵守状況を確認、部門間の情報交換も行った。エネルギーの合理的な使用その他設備の適正管理に継続して取り組んだが、2021年度エネルギー使用量は、前年度よりも増加した。

【法人本部】

事業名 ガバナンス体制の整備—理事会・評議員会の活性化

概要

理事会・評議員会における活発な意見を引き出す運営方法等を検討する。

進捗状況等

コロナウイルス感染症対策と会議との両立を優先、「ハイブリッド方式」による開催を定着させ、安心安全な会議を確保した。また、オンライン化を機に審議資料自体の見直しも進めた。活性化策自体は課題の共有に止まった。

事業名 安定した経営基盤の確保—目的別予算管理

概要

目的別予算管理を継続し、適切な予算配分を実行する。

進捗状況等

会計システム導入により適正な予算配分がある程度可能となり、業務の効率性も向上した。また、予算執行状況の把握も迅速かつ確実に行うことができたようになった。

事業名 施設設備の整備・充実—ポロニア館省エネ計画の検討

概要

ポロニア館2階部分（法人本部の入る）の省エネ診断を受診、改善事項に対応する。

進捗状況等

省エネ診断の結果、取り組むべき課題は、設備投資以外に無いことが明らかになった。

4 その他

(1) 施設設備

①男子部門

○ プラネタリウム更新工事

- ・工事概要 故障したプラネタリウム機器を交換した。
- ・工事費用 1,760,000円
- ・施工業者 有限会社天窓工房
- ・工事期間 2021年5月6日～5月9日

○ ウッドデッキ補修・下地補強工事

- ・工事概要 共用棟2階のウッドデッキが破損して危険な為、補修工事と併せて下地の補強工事を行った。
- ・工事費用 1,537,800円
- ・施工業者 鹿島建設株式会社
- ・工事期間 2021年7月8日～7月12日

○ 中高 無線LAN設置工事

- ・工事概要 デジタル教育環境整備として無線LAN設置工事を行った。
- ・工事費用 11,440,000円
- ・施工業者 ウチダエスコ株式会社
- ・工事期間 2021年6月16日～9月9日

○ 小 無線LAN設置工事

- ・工事概要 デジタル教育環境整備として無線LAN設置工事を行った。
- ・工事費用 11,660,000円
- ・施工業者 ウチダエスコ株式会社
- ・工事期間 2021年6月16日～9月9日

○ 西グラウンド・テニスコート照明器具交換工事

- ・工事概要 省エネの推進のため、水銀灯をLED照明に交換した。
- ・工事費用 4,785,000円
- ・施工業者 アイリスオーヤマ株式会社
- ・工事期間 2021年10月26日～10月28日

○ 家族寮 外壁改修・屋上防水工事

- ・工事概要 外壁に亀裂、屋根塗装面に剥離があり、雨漏りの可能性があるので改修した。
- ・工事費用 12,547,898円
- ・施工業者 株式会社ベーシング
- ・工事期間 2022年1月11日～3月12日

②女子部門

○ 小学校高学年校舎教室テラス目隠し対応工事

- ・工事概要 小学校の隣に新規で建設されたマンションから教室内が見えないようにするため、テラスの手摺に目隠し柵を取り付ける工事を実施した。
- ・工事費用 1,356,300円
- ・施工業者 信東建設株式会社
- ・工事期間 2022年1月22日～1月23日

○ 小学校5、6年教室床研磨工事

- ・工事概要 教室のフローリング床材が経年により傷みや劣化が著しかったので、昨年の3、4年生教室に引き続き、床表面の研磨・塗装工事を実施した。
- ・工事費用 2,101,000円
- ・施工業者 三友建設株式会社
- ・工事期間 2021年3月22日～4月8日

○ 体育センター第1体育室空調設置工事

- ・工事概要 熱中症対策等を目的として、体育センター第1体育室への冷暖房設備の設置工事を行った。
- ・工事費用 28,380,000円
- ・施工業者 東京冷機工業株式会社
- ・工事期間 2021年7月21日～8月19日

○ 体育センター第1体育室、本館庇・門周り外灯他LED工事照明交換工事

- (1) 工事概要 第1体育室で使用していた水銀灯の生産・販売中止に伴い、既設水銀灯のLED化工事を実施した。また、合わせて本館庇・門周り外灯のLED工事を行った。
- (2) 工事費用 3,993,000円
- (3) 施工業者 三菱電機ビルテクノサービス株式会社
- (4) 工事期間 2021年12月24日～12月28日

○ 校庭周辺保存樹木の剪定作業

- ・工事概要 校庭周辺の樹木(計6本)について、剪定作業を行った。
- ・工事費用 1,259,500円
- ・施工業者 村越緑地株式会社
- ・工事期間 2022年3月19日～3月21日

○ 北館屋上防水工事

- ・工事概要 雨漏り対策のため、北館屋上の防水工事を行った。
- ・工事費用 8,348,857円
- ・施工業者 株式会社ベーシング
- ・工事期間 2022年3月10日～2022年3月31日

③音楽部門

○ 仙川図書館改修工事

- ・工事概要 仙川キャンパスでの大学授業開講に伴い、サービス充実のため既存図書館の改修工事を行った。
- ・工事費用 12,260,000円
- ・施工業者 清水建設株式会社
- ・工事期間 2021年8月2日～9月3日

○ 調布キャンパス1号館配線工事

- ・工事概要 調布キャンパス1号館での図書館開館に必要な電気配線工事を行った。
- ・工事費用 927,366円
- ・施工業者 株式会社アクアキュービック
- ・工事期間 2022年2月1日～2月5日

○ 仙川キャンパス外灯追加工事

- ・工事概要 桐朋学園宗次ホール南側風除室前の照度確保のため、照明を追加した。
- ・工事費用 194,526円
- ・施工業者 前田建設工業株式会社
- ・工事期間 2021年4月26日

○ 富山キャンパス換気設備設置工事

- ・工事概要 換気量確保のため、換気設備を設置した。
- ・工事費用 880,000円
- ・施工業者 株式会社イナセホーム
- ・工事期間 2021年8月17日～8月20日

(2) 学費及び補助金等

①男子部門

学費

(単位:円)

項目 学校名	入学金	進学科	建設資金	授業料 (月額)	施設拡充費 (月額)	生徒諸費 (月額)	入学検定料
桐朋高等学校	270,000	200,000	130,000	40,200	10,000	2,500	25,000
桐朋中学校	270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000 *
桐朋学園小学校	270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000

* 第1回と第2回の両方に出願する場合、同時出願の場合、38,000円

補助金

東京都経常費補助金	桐朋高等学校	350,902,400
	桐朋中学校	228,448,700
	桐朋学園小学校	115,945,000
東京都私立高校授業料軽減助成金		45,232,100
東京都結核予防費補助金		102,346
東京都都内生就学促進補助金		962,400
その他の補助金		30,540,993
合計		772,133,939

学園債 2021年4月～2022年3月までの受入額

桐朋高等学校	4,500,000
桐朋中学校	41,400,000
桐朋学園小学校	19,900,000
合計	65,800,000

②女子部門

学費

(単位:円)

学校名			入学金	施設拡充費	授業料	施設維持費	学生諸料	演習・実習費	入学検定料
桐朋学園 芸術 短期大学	芸術科	音楽専攻	420,000	170,000	1,090,000	80,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	330,000	170,000	975,000	70,000	32,000	110,000	35,000
	専攻科	音楽専攻	10,000	—	975,000	70,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	10,000	—	975,000	70,000	32,000	120,000	35,000

学 校 名	入学金 進学手数料	施設拡充費	授業料 (月額)	施設維持費 (月額)	生徒児童諸料 (月額)	教育充実費 (年額)	入学検定料
桐 朋 女 子 高 等 学 校	230,000 100,000	100,000	41,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 女 子 中 学 校	270,000	100,000	41,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 小 学 校	300,000	100,000	48,600	11,500	24,000	24,000	25,000
桐 朋 幼 稚 園	300,000	—	47,600	10,500	24,000	24,000	20,000

補助金

私立大学等経常費補助金	
桐朋学園芸術短期大学	46,078,000
東京都経常費補助金	584,434,900
桐朋女子高等学校	295,649,300
桐朋女子中学校	173,665,000
桐朋小学校	101,858,400
桐朋幼稚園	13,262,200
授業料等減免費交付金(短)	18,121,400
東京都結核予防費補助金(短・高)	85,176
東京都私立高校授業料軽減助成金(高)	28,066,950
東京都都内生就学促進補助金(高)	310,200
就学支援金事務費補助(高)	496,000
外部検定試験料助成(高)	2,751,000
体育館空調設備導入補助金(高・中)	14,189,000
デジタル環境整備補助金(高・中)	3,132,000
省エネ設備導入補助金(高・中)	1,996,000
修学旅行キャンセル料等支援事業費補助金(中)	850,000
学校保健特別対策事業費補助金(高・中・小)	1,649,000
私立幼稚園教職員研修費補助金(幼)	50,000
私立幼稚園等新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金(幼)	500,000
私立幼稚園事務取扱補助金(幼)	120,000
保存樹木せん定補助金	692,500
緑の補助金	249,700
合計	703,771,826

教育環境整備寄付金 2021年4月～2022年3月までの受入額

桐朋女子高等学校	2,300,000
桐朋女子中学校	12,900,000
桐朋小学校	12,500,000
桐朋幼稚園	6,200,000
合計	33,900,000

③音楽部門

学費

(単位:円)

項目 学校名	入学金	運営維持費	授業料	施設設備費 (施設拡充費)	学生生徒 諸料	入学検定料
桐朋学園大学院大学	300,000	—	800,000	—	—	30,000
桐朋学園大学大学院	150,000 (本学卒業) 350,000 (他大学卒業)	100,000	1,200,000	150,000	—	30,000
桐朋学園大学	600,000	300,000 (各年次)	1,360,000	340,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 研究生	320,000 (外部のみ)	—	450,000	100,000 (外部生) 70,000 (内部生)	—	55,000 (新規外部) 5,000 (内部・継続外部)
桐朋学園大学音楽学部 ソリスト・ディプロマ	450,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 カレッジ・ディプロマ	200,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋女子高等学校 音楽科	500,000	300,000 (各年次)	820,800	127,600	13,800	52,500
桐朋オーケストラ・ アカデミー	108,000	—	648,000	—	—	16,500

補助金

国庫補助金

一般補助(大学院大学)	12,327,000
一般補助(大学)	106,159,000
特別補助(大学)	
授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実 他	2,310,000
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)	19,860,900
計	140,656,900

東京都補助金

一般補助(高校)	61,254,400
特別補助(高校)	6,690,300
都内生就学促進補助(高校)	344,400
結核予防費補助(高校)	16,496
結核予防費補助(大学)	56,897
私立学校等授業料軽減助成金(高校)	7,317,900
就学支援金学校事務費補助(高校)	396,000
計	76,076,393

調布市補助金

イチョウ剪定補助金	192,500
	192,500

富山市補助金

富山キャンパス運営費補助金	200,000,000
施設整備費補助金(大学院大学)	15,000,000
演奏会開催負担金(オーケストラ・アカデミー)	12,263,000
計	227,263,000

(3) 入学試験結果

①男子部門

桐朋高等学校・桐朋中学校・桐朋学園小学校

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校	一般 約50名	240	234	163	60
	内部 -	257	257	257	257
	計	497	491	420	※ 317
中学校	一般 第1回 約120名	317	299	150	134
	一般 第2回 約60名	512	394	231	74
	内部 -	70	70	70	70
	計	899	763	451	278
小学校	男子 72名	457	408	53	36
	女子	227	197	61	36
	計	684	605	114	72

※但し高1生の在籍者数は、留年者も含めて318名となります。

桐朋学園芸術短期大学

() 男子内数

		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
芸術科 音楽専攻	総合型A	I 期	10	10	10	9 (3)
		II 期	9	9	7	7 (0)
		III 期	6	6	6	6 (0)
		IV 期	3	3	3	3 (2)
	総合型B	I 期	0	0	0	0 (0)
		II 期	3	3	3	3 (1)
		III 期	0	0	0	0 (0)
		IV 期	0	0	0	0 (0)
	社会人	I 期	0	0	0	0 (0)
		II 期	3	3	3	3 (1)
		III 期	3	3	2	1 (1)
	学校推薦型	10	2	2	2	2 (0)
	一般	10	1	1	1	0 (0)
	計	50	42	41	38	35 (9)
専修科 別科音楽専攻	ピアノ	—	15	15	14	14
	声楽	—	10	9	9	9
	フルート	—	8	8	8	6
	クラリネット	—	2	2	2	2
	チューバ	—	1	1	1	1
	ヴァイオリン	—	4	4	2	1
	ヴィオラ	—	1	1	1	1
	尺八	—	1	1	1	1
	計	—	42	41	38	35
演芸科 劇術専攻	総合型A	I 期	34	34	34	34 (3)
		II 期	13	13	12	10 (2)
	総合型B	20	7	7	7	7 (2)
	学校推薦型	20	13	13	13	13 (3)
	一般	10	12	9	8	7 (0)
	計	90	79	76	74	71 (10)
芸術科 計		140	121	117	112	106 (19)
専攻科	演劇専攻	20	31	30	30	30 (9)
	音楽専攻	内部	16	16	16	16 (2)
		外部	2	2	2	2 (0)
	計	40	49	48	48	48 (11)

桐朋女子高等学校（普通科）・桐朋女子中学校・桐朋小学校・桐朋幼稚園

		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校 (普)	推薦	約15	11	11	11	10
	帰国生	約20	3	3	3	1
	一般	約50	45	42	35	14
	内部進学	—	146	146	146	146
	計	—	205	202	195	171
中学校	一般(A入試)	約130	104	94	86	66
	Creative English	約10	9	9	4	2
	論理的思考力&発想力入試	約40	58	34	26	10
	一般(B入試) 2科	約40	66	25	15	5
			103	56	50	10
	帰国生	約20	6	6	6	3
	計	約240	346	224	187	96
小学校	内部進学	—	59	59	59	59
	男子	—	405	283	246	155
	女子	46	329	272	36	23
	計	46	501	398	78	47
	内部進学	—	25	25	25	25
	計	—	526	423	103	72
幼稚園	男子	26	31	31	15	13
	女子	—	26	22	13	13
	計	26	57	53	28	26

③音楽部門

調布・仙川キャンパス

学 校 ・ 学 部 名 等		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
桐朋学園大学	大学院音楽研究科					
	修士課程	45	71	70	65	64
	博士後期課程	3	13	12	4	4
	小計	48	84	82	69	68
	音楽学部					
	音楽学科 一般	90	98	97	93	81
	指定校推薦一種	10	19	19	19	19
	指定校推薦二種	60	41	41	41	39
	一般推薦	15	4	4	4	4
	特待生	5	7	7	2	2
桐朋女子高等学校	飛び入学	若干名	0	0	0	0
	小計	180	169	168	159	145
	編入学	若干名	2	2	2	2
	特別転入学	若干名	1	1	1	1
桐朋女子高等学校	音楽科 一般	90	51	50	49	47
	一般推薦	10	8	8	8	8
	小計		59	58	57	55
ディプロマ・コース	ソリスト 新規	——	7	7	5	5
	継続	——	8	8	8	8
	カレッジ 新規	——	43	43	40	38
	継続	——	25	25	25	24
	小計		83	83	78	75
研究生	[1]	——	12	12	12	11
	[2] 継続	——	21	21	21	20
	[3]	——	17	16	15	14
	小計		50	49	48	45
科目等履修生	一般	——	7	7	7	7
	小計		7	7	7	7
計			455	450	421	398

富山キャンパス

桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻	——	1	1	0	0
	修士課程 特待生		10	10	8	7
	一般	10	10	10	8	7
科目等履修生	小計		11	11	8	7
	内部	——	1	1	1	1
	外部	——	2	2	2	2
桐朋 オーケストラ・アカデミー	小計		3	3	3	3
		——	145	134	30	27
	小計		145	134	30	27
計			159	148	41	37

(4) 教職員研究研修

①男子部門

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
高校	上原 隼	Optical Properties of Interstellar Dust around the Orion A Molecular Cloud (共著)	The Astrophysical Journal Vol.915	2021年7月8日
	倉田 昌彦	詳解現代地図 最新版 教師用指導書 (分担執筆)	二宮書店	2022年3月20日
中学	栗原 達也	Harmony English Logic and Expression I (共著)	いっずな書店	2022年2月25日
小学校	有馬 佑介	異学年合同学習モデルの構築とその効果	一般財団法人 日本私学教育研究所	2021年6月

②女子部門

◎部門内研修制度利用者

所属	個人・共同	氏名(代表者)	研 究 課 題
中高部	個 人	齊藤 秀和	歌曲作品の演奏技術の習得及び楽曲研究 (2021.4.1～2022.3.31)
	個 人	吉崎 亜由美	高等学校地理、公民科におけるリーダーシップ開発の視点に立ったESDの実践と生徒の変容 (2021.4.1～2022.3.31)
初等部	共 同	島田 晶子	フィールドワークを通じた社会科の授業づくりの研究。主たるフィールドは、鹿児島とする。 (2021.4.1～2022.3.31)
	個 人	伊垣 尚人	数学者の時間～数学的思考を使った算数・数学探究～ (2021.4.1～2022.3.31)
	個 人	束原 和郎	教師の学び・発達・成長を促進する環境についての研究 (2021.4.1～2022.3.31)

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	[編著書] 『国を越えて アジアの芸術』	彩流社	2022年
		[論文] 「コロナのなかで：韓国演劇はどのように日本で上演されたのか」	『Korean Theatre Journal』(101) p.148-152	2021年6月
		[舞台評] 「現代の正義論 俳優座『正義の人びと』、オフィス・コトナー『墓場なき死者』、民藝『地熱』	『テアトロ』(986) p.42-44	2021年4月
		「当事者とはだれか 谷賢一をめぐって」	『テアトロ』(989) p.12-13	2021年7月
		「巻頭リレー劇評323 今月選んだベストスリー『インク』『ビニールの城』『虹む街』	『テアトロ』(989) p.5-7	2021年7月
		「巻頭リレー劇評 327 今月選んだベストスリー『長崎の聖母』4『Le Fils 息子』	『テアトロ』(994) p.5-7	2021年11月
		「巻頭リレー劇評 328 今月選んだベストスリー『近松心中物語』『ヒメ呼』『悪魔をやっつける』	『テアトロ』(995) p.5-7	2021年12月

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	「身体の原論―劇団態変の三部作」	『IMAJU』(81) p.90-95	2022年2月
		「巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー330 『鷗外の怪談』『桜の園』『Letters』」	『テアトロ』(998) p.57-59	2022年2月
		「ワーストからみるパフォーマンスの未来」	『テアトロ』(999) p.34-35	2022年3月
		〔座談会〕 「総括座談会 2021年の日本演劇会「蘇れ！ コロナに負けず」」杉山弘、高橋宏幸、林あま り、河野孝	『テアトロ』(998) p.5-31	2022年2月
		〔新聞評〕 「象徴の抽象度―練肉工房公演「盲人達」」	『図書新聞』3513号 8頁	2021年9月25日
		「高山明『テアトロン』」書評	『週刊読書人』3409号 4頁	2021年10月1日
		「観客論を待ちながら 2021年演劇界回顧」	『図書新聞』3528号 8頁	2022年1月29日
		「演劇書回顧(2021年)」	『週刊読書人』3420号 9頁	2021年12月17日
		「現代の君主たる観客論へ」	座・高円寺 発行 『Theatre Communication Magazine』26号 p.13	2021年9月
		「Webと劇場の公共」	座・高円寺 発行 『Theatre Communication Magazine』27号 p.13	2022年3月
中高部	岡野屋宏一	〔作品出展〕 第72回毎日書道展、「影」	国立新美術館	2021年7月8日
		第40回硯心会書展、「繭」	東京都美術館	2021年8月14日
		第10回記念玄潮会秋季書展、「貫」	セントラルミュージアム 銀座	2021年9月1日
		2022現代の書新春展、「暁」	セントラルミュージアム 銀座	2022年1月4日
		〔著作等〕 第40回硯心会書展特別企画「東京学芸大学 書道科 草創期教官の書」編集上梓	同展特別企画実行委員 会	2021年8月14日
		「石原太流を偲ぶ」展作品集、編集上梓	同展実行委員会	2022年2月15日
		毎日新聞(朝刊)【東京版】こころの書「上達 への一歩」執筆	毎日新聞社	2022年3月25日
		書道 I 指導資料(指導書)〈共同執筆〉	東京書籍	2022年3月
	内藤 芳宏	地域と世界をつなぐ「地理総合」の授業 (共著)	大月書店	2021年4月22日
		総合百科事典「ポプラディア」第3版(共著)	ポプラ社	2021年11月17日

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
中高部	吉崎亜由美	現場で育むフィールドワーク教育(共著)	古今書院	2021年8月12日
		服・ファッション 開発教育アクティビティ集5(共著)	開発教育協会(DEAR)	2022年3月1日
		ティーチング・ポートフォリオ —どのようにビジョンを共有し、自己変容を促す学びをデザインすればよいのか—	桐朋学園女子部 研究紀要第37号 (桐朋教育研究所)	2022年3月31日
		PBLメッセ2021—激動の時代のPBL— PBLを取り入れた高等学校地理の授業デザインと生徒の変容	日本PBL研究所 (東京電機大学/ZOOM ハイブリッド開催)	2021年6月26日
		人間を育むフィールド(ワーク)教育 —学びの余白と自己変容— フィールド学習とプロジェクト学習の学びのデザインと生徒・学校の変容	NPO法人FENICS (ZOOM オンライン開催)	2021年12月5日

③音楽部門

「桐朋学園大学研究紀要」第47集

◎論文

大学	岡田 安樹浩	ベートーヴェンの第9交響曲第3楽章における音色の「移行の技法」
	佐藤 康太	ジャック＝マルタン・オトテール 《通奏低音を伴わない2つの高音楽器のための組曲 第1番》 作品4の3つの版
	西原 稔	19世紀前半ドイツ語圏における音楽祭についての社会史的考察
	前原 恵美	常磐津節《将門》の音楽分析 ——〈オトシ〉と〈ナガシ〉の機能をめぐって——
	大島 路子	音楽大学におけるキャリア教育についての一考察 ——日本語表現授業連携とコロナ禍中の芸術活動を通して見えてきたもの——

◎研究ノート

大学	杵鞭 広美	新しい教育課程における音楽科教育の展望 ——ICT教育の実現と教育養成大学におけるアクティブ・ラーニングの実践報告から——
	米田 潔弘	ヴェネツィアのアメリカーノ: 音楽家オルガ・ラッジ(1895～1996)
高校	鈴木 しのぶ	共時・共有・共感——音楽科教育とソルフェージュ教育を横断する——

Ⅲ 財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産全体は、2017年度末287億1300万円から2021年度末284億5700万円に、2億5600万円減少しました。

有形固定資産は、201億2100万円から193億9600万円に7億2600万円減少しました。土地と建物とで計3億7300万円減少したことが影響しています。また、教育研究用及び管理用の両機器備品の計2億4400万円の減少は主に減価償却によるものです。

負債全体は、2017年度末74億5800万円から2021年度末66億5700万円に、8億100万円減少しました。

固定負債は、56億5800万円から48億4700万円に、8億1200万円減少しており、長期借入金の7億1000万円の減少が主なものです。負債のうち有利子負債（長期借入金と短期借入金）は、29億2300万円から22億5400万円に減少しました。4年の間に22.9%減少しています。

(単位：百万円)

科 目	2017年度末	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末
固定資産	24,943	24,494	24,972	24,924	24,214
有形固定資産	20,121	19,516	20,207	20,343	19,396
土地	1,541	1,541	1,541	1,541	1,397
建物	14,747	14,209	13,768	15,194	14,517
構築物	961	909	853	851	791
教育研究用機器備品	1,125	1,014	970	994	913
管理用機器備品	110	105	97	91	79
図書	1,638	1,632	1,654	1,672	1,698
建設仮勘定	0	106	1,324	0	0
特定資産	3,980	4,143	3,954	3,991	4,179
その他の固定資産	842	835	811	589	639
流動資産	3,770	3,961	3,245	3,781	4,243
現金預金	3,250	3,523	2,676	3,014	3,724
その他の流動資産	519	439	569	767	520
資産の部合計	28,713	28,455	28,217	28,705	28,457
固定負債	5,658	5,467	5,287	5,002	4,847
長期借入金	2,786	2,608	2,431	2,254	2,076
退職給与引当金	2,512	2,522	2,527	2,409	2,451
その他の固定負債	360	337	329	339	319
流動負債	1,800	1,765	1,692	1,773	1,810
短期借入金	136	178	178	178	178
前受金	1,021	982	994	956	962
その他の流動負債	642	604	520	639	671
負債の部合計	7,458	7,232	6,979	6,775	6,657
基本金	28,474	28,667	30,176	31,181	31,041
第1号基本金	27,409	27,602	29,111	30,116	29,976
第3号基本金	423	423	423	423	423
第4号基本金	642	642	642	642	642
繰越収支差額	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241
翌年度繰越収支差額	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241
純資産の部合計	21,255	21,223	21,238	21,930	21,800
負債及び純資産の部合計	28,713	28,455	28,217	28,705	28,457

イ) 財務比率の経年比較

(単位：％)

運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 事業活動支出	-38.1 (1.4)	-29.7 (1.4)	-39.2 (1.4)	-32.8 (1.5)	-20.8
流動比率	流動資産 流動負債	209.4 (239.5)	224.4 (238.1)	191.7 (241.6)	213.2 (249.7)	234.3
総負債比率	総負債 総資産	25.9 (14.4)	25.4 (14.3)	24.7 (14.4)	23.6 (14.4)	23.3
前受金保有率	現金預金 前受金	318.3 (380.1)	358.5 (376.2)	269.1 (374.2)	315.2 (390.0)	387.2
積立率	運用資産 要積立額	59.7 (72.4)	59.8 (72.7)	49.9 (71.9)	49.3 (72.0)	52.9

※()の比率:令和3年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(2) 資金収支計算書

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

前年度繰越支払資金を除いた資金収入は、2017年度96億5700万円から2021年度94億9400万円に、1億6300万円減少しました。学生生徒等納付金収入は、2021年度において60億円台に回復はしましたが、2017年度以来、減少基調にあることはご覧のとおりです。

翌年度繰越支払資金を除いた資金支出は、2017年度94億400万円から2021年度87億8400万円に、6億2000万円減少しました。人件費支出が59億1200万円から55億8200万円と、3億3000万円減少したことが、その大きな要因です。

翌年度繰越支払資金は、2017年度32億5000万円、2018年度35億2300万円、2019年度26億7600万円、2020年度30億1400万円、2021年度37億2400万円であり、音楽部門仙川キャンパス整備のための工事費負担で減少した2019年度を除けば、それほど大きな変化は見られません。

(単位：百万円)					
科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
収入					
学生生徒等納付金収入	6,370	6,213	6,054	5,933	6,009
手数料収入	101	104	101	96	99
寄付金収入	36	42	99	891	69
補助金収入	1,849	1,841	1,917	1,992	1,908
国庫補助金収入	181	200	247	356	207
地方公共団体補助金収入	1,668	1,641	1,671	1,636	1,701
資産売却収入	15	10	0	200	350
付随事業・収益事業収入	0	1	2	0	11
受取利息・配当金収入	23	23	21	18	17
雑収入	354	271	273	269	224
借入金等収入	64	78	66	62	66
前受金収入	1,021	982	994	956	962
その他の収入	1,347	853	1,342	1,057	1,188
資金収入調整勘定	△ 1,524	△ 1,391	△ 1,486	△ 1,659	△ 1,409
計 ①	9,657	9,027	9,384	9,816	9,494
前年度繰越支払資金	2,998	3,250	3,523	2,676	3,014
収入の部合計	12,655	12,278	12,907	12,491	12,507
支出					
人件費支出	5,912	5,800	5,631	5,682	5,582
教育研究経費支出	1,516	1,537	1,611	1,786	1,618
管理経費支出	421	350	364	374	373
借入金等利息支出	10	11	13	12	11
借入金等返済支出	221	240	275	251	239
施設関係支出	139	129	1,356	708	71
設備関係支出	139	79	160	226	119
資産運用支出	694	169	446	125	323
その他の支出	536	590	549	481	643
資金支出調整勘定	△ 182	△ 151	△ 174	△ 168	△ 195
計 ②	9,404	8,755	10,232	9,477	8,784
当年度収支差額 (①－②)	253	272	△ 847	338	710
翌年度繰越支払資金	3,250	3,523	2,676	3,014	3,724
支出の部合計	12,655	12,278	12,907	12,491	12,507

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収入は、86億7600万円、84億4100万円、83億4800万円、81億7900万円と減り続けていましたが、2021年度は82億7200万円となりました。教育活動支出は、78億4600万円、76億8700万円、75億8300万円、78億100万円と推移し、2021年度は75億7100万円に減少しました。これは2020年度が、新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、教育研究経費支出の増加を余儀なくされたためでした。授業のオンライン化への対応のため、給付金の支給や学費の減免を行うなどしたことによるものです。学生生徒等納付金収入の微増と相俟って、2021年度の教育活動資金収支差額は、7億8500万円にまで回復しました。

施設整備等活動による資金収支差額は、4億700万円、3億2600万円、11億5600万円、1億4200万円と、いずれも支出超過で推移してきましたが、2021年度は1億2100万円の収入超過となりました。2019年度、2020年度の支出超過は、音楽部門の仙川キャンパス第二期工事が関係していますが、2021年度は、調布キャンパス2号館の売却収入に対し、設備投資に充てる支出が例年と比べ少額であったことなどによるものです。

大規模な施設設備の整備・拡充も一段落着いた所に、教育活動では収入超過となるなどの結果、2021年度の支払資金は7億1000万円の増となっています。

(単位：百万円)

科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,676	8,441	8,348	8,179	8,272
教育活動資金支出計	7,846	7,687	7,583	7,801	7,571
差引	830	755	765	378	701
調整勘定等	△ 100	2	△ 36	△ 119	84
A 教育活動資金収支差額	730	757	729	259	785
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	34	31	528	983	348
施設整備等活動資金支出計	744	359	1,617	1,040	390
差引	△ 710	△ 328	△ 1,089	△ 57	△ 42
調整勘定等	303	2	△ 67	△ 85	163
B 施設整備等活動資金収支差額	△ 407	△ 326	△ 1,156	△ 142	121
小計(A+B)	323	431	△ 427	118	906
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	776	524	630	839	659
その他の活動資金支出計	846	682	1,053	619	858
差引	△ 70	△ 158	△ 422	220	△ 198
調整勘定等	△ 0	△ 0	2	1	2
C その他の活動資金収支差額	△ 70	△ 158	△ 420	220	△ 197
支払資金の増減額(小計+C)	253	272	△ 847	338	710
前年度繰越支払資金	2,998	3,250	3,523	2,676	3,014
翌年度繰越支払資金	3,250	3,523	2,676	3,014	3,724

ウ) 財務比率の経年比較

教育活動 資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動収入	8.41 (12.5)	8.96 (12.6)	8.73 (12.0)	3.17 (13.0)	9.48
------------------	----------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	------

※()の比率:令和3年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(3) 事業活動収支計算書

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

教育活動収入の合計は、2017年度84億7200万円から2021年度81億9900万円に減少しています。学生生徒等納付金は毎年減少を続けており、2020年度は新型コロナウイルスの影響も加わって50億円台にまで落ち込みましたが、2021年度は60億円台に回復をしました。そのような中、経常費等補助金は18億円台で安定的に推移しています。教育活動支出の合計は、2017年度82億9300万円から2021年度84億9700万円に増加しています。特に人件費は2020年度の54億円から2021年度55億5300万円に増加しています。これは退職給与引当金繰入額の1億1100万円の増加が大きく影響しました。以上の結果、2021年度の教育活動収支差額は2億9800万円の支出超過となり、経常収支差額も2億9500万円の支出超過となりました。

基本金組入前当年度収支差額は、2017年度の2億1400万円から年度によって増減がありますが、2021年度は1億3000万円の支出超過となっています。

(単位：百万円)

科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収支					
学生生徒等納付金	6,370	6,213	6,054	5,933	6,009
手数料	101	104	101	96	99
寄付金	34	41	98	85	68
経常費等補助金	1,818	1,811	1,820	1,816	1,861
付随事業収入	1	2	3	△ 15	10
雑収入	149	127	214	100	153
収入計	8,472	8,297	8,291	8,015	8,199
人件費	5,603	5,666	5,579	5,400	5,553
教育研究経費	2,199	2,222	2,287	2,480	2,463
うち減価償却額	683	685	676	694	845
管理経費	490	431	413	411	478
うち減価償却額	72	81	72	78	107
徴収不能額等	1	0	1	3	3
支出計	8,293	8,319	8,279	8,294	8,497
収支差額	180	△ 22	11	△ 279	△ 298
教育活動外収支					
受取利息・配当金	21	20	19	16	14
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
収入計	21	20	19	16	14
借入金等利息	10	11	13	12	11
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
支出計	10	11	13	12	11
収支差額	11	8	6	4	3
経常収支差額	191	△ 13	17	△ 276	△ 295
特別収支					
資産売却差額	0	0	0	20	131
その他の特別収入	40	38	103	990	52
収入計	40	38	104	1,010	184
資産処分差額	14	56	83	16	16
その他の特別支出	3	0	23	26	2
支出計	16	56	105	42	18
収支差額	23	△ 18	△ 2	968	165
基本金組入前当年度収支差額	214	△ 32	15	692	△ 130
(事業活動収支差額比率)	(2.51%)	(△0.38%)	(0.18%)	(7.64%)	(△1.55%)
基本金組入額合計	△ 288	△ 230	△ 1,589	△ 1,006	△ 260
当年度収支差額	△ 74	△ 262	△ 1,574	△ 314	△ 390
前年度繰越収支差額	△ 7,146	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251
基本金取崩額	0	37	81	0	400
翌年度繰越収支差額	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241
(参考)					
事業活動収入計	8,533	8,355	8,413	9,056	8,397
事業活動支出計	8,319	8,387	8,398	8,364	8,527

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率	人件費	65.9	68.1	67.1	67.2	67.6
	経常収入	(49.5)	(49.0)	(48.7)	(47.5)	
教育研究経費比率	教育研究経費	25.8	26.7	27.5	30.8	29.9
	経常収入	(39.6)	(40.0)	(40.4)	(40.8)	
管理経費比率	管理経費	5.7	5.1	4.9	5.1	5.8
	経常収入	(6.9)	(6.9)	(7.0)	(6.4)	
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	2.5	-0.3	0.1	7.6	-1.5
	事業活動収入	(4.6)	(4.0)	(3.8)	(5.5)	
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	75.0	74.6	72.8	73.8	73.1
	経常収入	(51.5)	(51.5)	(51.0)	(50.3)	
経常収支差額比率	経常収支差額	2.2	-0.1	0.2	-3.4	-3.5
	経常収入	(3.7)	(3.7)	(3.6)	(5.0)	

※()の比率:令和3年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

2 主な収入の推移

(1) 学生生徒等納付金収入

2021年度におきましても、新型コロナウイルスの影響は続き、入学者数の確保は大きな課題となりました。男子部門は、小中高全ての学校でほぼ前年度並みの生徒数を確保しました。

女子部門は、短大・高校で減少が見られましたが、部門全体ではほぼ前年度の数を維持しました。

音楽部門は大学院は9名増。開学以来順調にこれまで来ております。大学が前年度の17名減から8名増となりました。高校音楽科は前年度をほぼ維持しております。

(単位：人、千円)

年 度	部門	学生生徒等数					学生生徒等納付金収入				
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
男子部門	桐朋高等学校	971	972	961	965	955	690,679	675,051	667,402	670,569	652,999
	桐朋中学校	789	778	788	797	802	622,488	621,157	625,739	631,689	633,079
	桐朋学園小学校	428	430	432	429	428	313,300	308,643	312,955	312,778	309,251
	計	2,188	2,180	2,181	2,191	2,185	1,626,467	1,604,851	1,606,096	1,615,037	1,595,328
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	324	317	322	316	294	477,092	448,625	451,965	449,161	419,888
	桐朋女子高等学校（普通科）	720	636	553	513	500	477,099	408,818	359,444	356,541	331,868
	桐朋女子中学校	547	513	490	465	484	437,224	402,101	384,650	391,378	403,053
	桐朋小学校	434	429	432	433	432	363,629	360,974	367,289	377,004	377,419
	桐朋幼稚園	66	78	78	77	78	56,923	74,697	65,673	67,183	68,032
	計	2,091	1,973	1,875	1,804	1,788	1,811,967	1,695,215	1,629,021	1,641,267	1,600,259
音楽部門	桐朋学園大学院大学	22	21	20	19	19	21,900	19,400	19,700	18,000	17,600
	桐朋学園大学大学院	60	102	103	120	129	98,828	156,079	160,184	192,959	203,993
	桐朋学園大学音楽学部	748	717	682	665	673	1,718,216	1,667,337	1,593,319	1,553,352	1,577,906
	桐朋女子高等学校（音楽科）	198	180	157	164	160	279,523	252,521	220,435	238,273	224,170
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	2,169	2,287	2,154	1,981	1,997	773,643	776,204	783,812	641,983	749,663
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	61	61	64	64	62	39,391	41,472	41,820	31,928	39,794
	計	3,258	3,368	3,180	3,013	3,040	2,931,502	2,913,013	2,819,270	2,676,495	2,813,125
法人合計		7,537	7,521	7,236	7,008	7,013	6,369,936	6,213,079	6,054,386	5,932,798	6,008,713

※ 学生生徒数は各年度5月1日現在である(但し、子供のための音楽教室は3月31日現在)。

(2) 入学検定料収入

2021年度の志願者数は、新型コロナウイルスの影響で学校見学の機会が制約されたこともあり、桐朋中学校で対前年度255名の減となりました。他方、前年度大幅に志願者数を減らした短期大学では、やはり諸活動の制約に伴う学生募集への影響が懸念されましたが、2021年度は121名と、若干ではありますが、前年度を上回る学生数を確保することができました。

(単位：人、千円)

年 度	部門	志願者数（内部進学者を含む）					入学検定料収入				
		2018年度 入学者	2019年度 入学者	2020年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者	2018年度 入学者	2019年度 入学者	2020年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者
男子部門	桐朋高等学校	527	500	505	472	497	6,625	6,425	6,150	5,400	6,000
	桐朋中学校	1,126	1,174	1,153	1,154	899	25,188	26,185	26,030	25,008	20,267
	桐朋学園小学校	557	559	602	602	684	13,975	14,375	15,300	15,150	17,200
	計	2,210	2,233	2,260	2,228	2,080	45,788	46,985	47,480	45,558	43,467
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	199	215	174	103	121	5,730	7,360	6,175	4,425	4,695
	桐朋女子高等学校（普通科）	214	182	199	175	205	1,196	1,012	1,196	1,127	1,564
	桐朋女子中学校	337	369	385	376	405	5,807	7,002	7,210	7,125	7,365
	桐朋小学校	353	370	412	442	526	8,925	10,125	10,550	11,925	13,600
	桐朋幼稚園	4歳児 77 3歳児 79	98	73	69	57	3,120	2,140	1,460	1,400	1,320
	計	1,259	1,234	1,243	1,165	1,314	24,778	27,639	26,591	26,002	28,544
音楽部門	桐朋学園大学院大学	11	13	14	17	14	320	470	360	490	400
	桐朋学園大学大学院音楽研究科	60	67	73	62	85	1,800	2,010	2,190	1,860	2,550
	桐朋学園大学音楽学部	196	187	187	182	165	15,135	14,062	10,478	10,050	10,868
	桐朋女子高等学校（音楽科）	56	55	67	51	60	2,993	2,888	3,518	2,678	3,150
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	—	—	—	—	—	3,075	2,968	2,844	2,492	2,536
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	112	128	135	142	145	1,210	1,382	2,228	2,343	2,393
	計	435	450	476	454	469	24,532	23,779	21,617	19,912	21,896
法人合計		3,904	3,917	3,979	3,847	3,863	95,098	98,403	95,688	91,472	93,907

※ 志願者数は、転編入を除き、内部進学を含む

(3) 補助金収入

ア) 補助金部門別交付額の推移

本法人に対する補助金総額は、2017年度18億4900万円、2018年度18億4100万円、2019年度19億1700万円、2020年度19億9200万円、2021年度19億800万円と、年度による増減はあるものの、安定的に推移しています。

男子部門への補助金は、7億3000万円、7億2900万円、7億5600万円、7億4800万円と推移し、2021年度は7億7200万円に、2020年度から2400万円増加しました。

女子部門への補助金は、7億700万円、6億8200万円、7億600万円、6億8800万円と推移し、2021年度は7億400万円に、2020年度から1600万円増加しました。

音楽部門への補助金は、4億1200万円、4億3100万円、4億5500万円、5億5600万円と推移し、2021年度は4億3200万円に、2020年度から1億2400万円減少しました。音楽部門の2020年度の補助金には、仙川キャンパス第二期工事に対する補助金1億6100万円が含まれています。

(単位：千円)

部門・学校\年度		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
男子部門	桐朋高等学校	388,595	388,358	404,992	396,386	412,594
	桐朋中学校	224,773	223,238	234,596	233,071	237,322
	桐朋学園小学校	116,516	117,258	116,155	118,393	122,218
	計	729,885	728,854	755,743	747,850	772,134
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	49,961	53,127	55,604	72,555	64,395
	桐朋女子高等学校（普通科）	347,879	334,899	349,146	325,883	338,059
	桐朋女子中学校	184,824	175,822	180,848	172,445	185,135
	桐朋小学校	111,539	106,424	110,052	104,210	102,210
	桐朋幼稚園	12,479	11,229	10,842	12,680	13,973
	計	706,682	681,502	706,492	687,774	703,772
音楽部門	桐朋学園大学院大学	107,713	120,698	115,749	130,382	126,332
	桐朋学園大学大学院	0	0	0	0	0
	桐朋学園大学音楽学部	124,150	135,081	158,635	266,166	128,543
	桐朋女子高等学校（音楽科）	71,489	71,575	71,091	71,365	76,055
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	14	0	0	0	0
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	108,677	103,631	109,505	88,319	100,995
	計	412,042	430,986	454,981	556,232	431,926
法人合計		1,848,609	1,841,342	1,917,216	1,991,855	1,907,832

イ) 補助金種類別交付額の推移

私立大学等経常費補助金は、2017年度以降1億7000万円、1億8600万円、1億7700万円、1億6000万円と推移してきましたが、2021年度は1億6700万円となり、2020年度と比べて700万円の増加となりました。他方、その他施設設備に係る補助金は、1億5700万円減少しました。これは、2020年度には、仙川キャンパス第二期工事で音楽部門が「サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)補助金」を頂いていたことによります。

東京都の経常費補助金は、2017年度は13億5100万円、2018年度は13億3000万円、2019年度は13億4700万円、2020年度は13億3300万円と推移し、2021年度は13億4800万円でした。在籍する児童・生徒数、教職員数及び評価係数の影響を受けて年度による増減はありますが、13億円台で安定的に推移していると言えます。

(単位：千円)

補助金の種類\年度			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
国庫補助金	私立大学等経常費補助金	一般補助	152,527	164,236	161,223	155,800	162,564
		特別補助	17,810	22,255	15,370	4,136	4,310
	計		170,337	186,491	176,593	159,936	166,874
	その他（施設設備補助金等）		10,675	13,749	70,086	196,410	39,631
	計		181,012	200,240	246,679	356,346	206,505
地方公共団体補助金	東京都経常費補助金	一般補助	1,288,226	1,268,500	1,289,176	1,278,316	1,288,125
		特別補助	63,245	61,828	58,171	54,444	59,551
		計	1,351,470	1,330,327	1,347,347	1,332,760	1,347,676
	私立高等学校授業料軽減補助金		67,676	78,554	76,168	67,738	80,617
	結核予防費都費補助金		302	285	269	273	261
	私立高等学校都内生就学促進補助金		2,672	1,592	1,731	2,010	1,617
	富山市補助金		210,000	213,000	214,000	205,746	215,000
	その他（施設設備補助金等）		35,477	17,343	31,022	26,983	56,156
	計		1,667,597	1,641,102	1,670,537	1,635,510	1,701,326
	法人合計		1,848,609	1,841,342	1,917,216	1,991,855	1,907,832

3 その他

(1) 有価証券の状況

(単位：千円)

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
債券	国債	1口	59,925	60,618	特定資産(江戸奨学特定資産)
債券	国債	1口	12,578	13,172	有価証券(生江義男先生記念教育研究基金)
債券	国債	1口	31,412	32,931	うち11,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	103,214	111,818	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	104,588	114,049	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	21,550	24,162	有価証券
債券	国債	1口	49,939	54,535	有価証券
債券	国債	1口	206,634	223,620	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	20,459	22,124	有価証券
債券	国債	1口	49,509	47,945	有価証券
債券	名古屋市公債	1口	104,788	114,050	有価証券
債券	大阪市公債	1口	102,565	111,250	有価証券
株式	調布エフエム放送(株)	10口	201		有価証券
株式	新日本製鐵(株)	1650口	896		有価証券
株式	東京電力(株)	3897口	811		有価証券
出資証券	多摩中央信用金庫	2000口	100		有価証券
計			869,168	930,275	

(2) 借入金の状況

(単位：千円)

借入先	借入残高	利率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	1,166,550	0.50%	2033年3月～2034年3月	校地
日本私立学校振興・共済事業団	908,580	0.38% 0.50%	2035年9月～2036年9月	校地
東京都私学財団	1,100	0.00%	2023年3月～2024年4月	なし
計	2,076,230			

(3) 学校債の状況

(単位：千円)

発行年度	本年度末残高	利率	償還期限	摘要
2016年度	82,200	0.00%	2023年3月	
2017年度	64,500	0.00%	2024年3月	
2018年度	73,200	0.00%	2025年3月	
2019年度	57,600	0.00%	2026年3月	
2020年度	55,400	0.00%	2027年3月	
2021年度	59,900	0.00%	2028年3月	
計	392,800			

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

種類	寄付者	金額	摘要
桐朋奨学会基金への寄付	新入生保護者	4,320	224口
奨学会への寄付	小学校新入生保護者、短大保証人	1,774	90口
生徒特別教育活動基金への寄付	中高新入生保護者	960	81口
帰国子女教育活動基金への寄付	中高帰国生(新入生)保護者	420	10口
創立80周年記念事業協力金	八南女子父母会	2,680	2口
一般寄付	薄井紀子様・犬伏信也様	700	
一般寄付	卒業生、在学生保護者他	45,201	195口
一般寄付	—	200	1口
宗次徳二桐朋学園大学大学院特待奨学金寄付金	(特非)イエロー・エンジェル理事長 宗次徳二様	6,000	1,200千円×5名
桐朋学園音楽部門留学支援奨学金「江崎スカラシップ」寄付金	江崎正道様	5,000	5,000千円×1名
桐朋学園音楽部門70周年記念基金寄付金	(株)ヤマハミュージックリテイリング、 (株)ヤマハミュージックジャパン、他1名	1,100	3口
桐朋学園仙川新校舎楽器・設備募金寄付金	—	350	3口
若手音楽家支援プロジェクト寄付金	—	230	3口
現物寄付(教育研究用機器備品)	(株)河合楽器製作所	0	1点
現物寄付(図書)	桐朋中学・高等学校PTA	950	
現物寄付(フリーアドレスデスク、ワイヤレススピーカーマイク、図書)	高3卒業記念、小6卒業記念他	971	
現物寄付(図書)	—	1,887	678点
計		72,743	

(5) 関連当事者との取引の状況

(単位:千円)

役員・法人等名称	資本金又は出資金	取引の内容	取引金額
理事 鈴木 正義	—	本法人の東京都私学財団からの借入金債務（入学支度金）に対する連帯保証人である。保証料の支払いはない。	1,300
理事 原口 大助	—	住宅資金貸付規程及び特別資金貸付内規に基づき、男子部門より資金を借り受けている。	3,000

4 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応

(1) 男子部門

2020年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年となった。2020年度には、すべての宿泊行事の実施を見送らざるを得なかったが、今年度は中高修学旅行、中学クラスの日を実施することが出来た。これらの宿泊行事を実施したことで、改めて宿泊行事がクラスや学年作りに大きな影響を与えていることを確認した。

一方で、平常の授業を止めないことを重視し、外部の方々の来校を大きく制限したため、対面での学校説明会の実施を見送った。2年間に渡って、桐朋祭なども外部の方々の入場をお断りしたこともあり、本校に入学を希望する児童やその保護者に対して、本校の生の姿をみていただく機会を失ったことは、生徒募集に大きな影響を与えた。そのような中、小学校の志願者数は80名以上の増加したものの、高校の志願者数は2年前に戻り、中学は大幅な減少となっている。2022年度は、中高においては、学校に来校していただき直接学校の様子を見ていただく機会を増やしていきたい。

財務全般を見ると、児童・生徒は安定して確保出来ている中、新型コロナウイルス感染症により、行事が中止となったことなどを受けて、支出が大幅に減少していることにより、当初の想定より収支は好転していると言ってよい。しかし、学習環境に係わることとして、体育館への空調機器導入やICT環境の整備など継続して取り組む必要がある。また、これから数年の間に確実に直面する問題として、少子化に伴う学校規模縮小、公務員の定年延長を見据えた上での本校独自の60歳以降の生活保障のあり方の検討、特に教員の働き方改革があり、いずれも財務に大きな影響を与えるものとなっている。児童・生徒の教育環境充実を第一に考えてきたことにより、どうしても教職員への対応が遅れがちになっている。これらの課題に対して、慎重かつ早急に今後の施策を検討・決定していく必要がある。

(2) 女子部門

2021年度も様々な場面でコロナによる影響が多く感じられる一年だった。関係する支出は前年度ほど多額ではなかったが、ウイルス対策のための外部委託に関わる経費や各種の保健・衛生用品への支出などは例年に比べて多かった。また、収入面では2年連続での八ヶ岳高原寮の全面休業や教育研究所が運営している桐朋講座、短大が実施している市民向けの講座の縮小などにより、補助事業への影響が大きかった。

財務全般を見ると、ここ数年は主に短大、中高の在籍数の減少に伴う学納金収入の減少と教職員の人員減による人件費の減少にタイミングのずれが生じることで、事業活動収支、繰越支払資金とも厳しい状況が続くことが予想される。寄付金募集のより積極的な働きかけや戦略的な補助金の獲得等、学納金以外での収入増をいかに図るかが引き続き、課題として挙げられる。

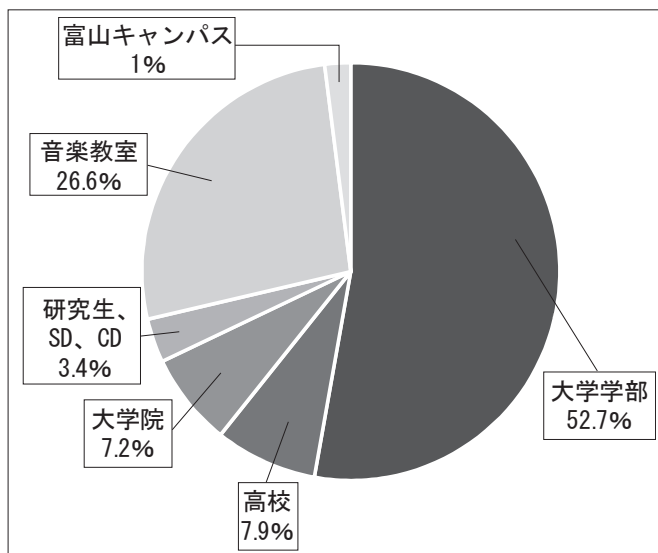
また、定年の延長や高齢者の再雇用など、社会全体の仕組みが大きく変わっていく中で部門として教職員の雇用制度をどのように考えていくかなど、新たな課題への取り組みが必要になっている。コロナの影響もあり当初の計画から遅れている校舎建築についても、女子部門全体の基本構想を策定し、より具体的な計画へと進めていきたいと考えている。

(3) 音楽部門

2021年度決算における音楽部門の単年度収入3,849,828千円のうち、学生生徒等納付金収入は2,813,125千円であり、収入全体の7割以上を占めている。そのうち、最も比率が高いのは大学学部の学生納付金1,482,831千円であるが、その次は音楽教室の生徒からの納付金であり、その額は107,679千円である。学生生徒等納付金のうちの3割近くを占めるこの部分が、2020年度に新型コロナウイルス感染症の影響を最も受けたのであるが、2021年度は音楽教室の収支の改善が大きな課題の一つであった。

学生生徒等納付金における各学校の比率

大学学部	52.70%
高校	7.90%
大学院	7.20%
研究生、SD、CD	3.40%
音楽教室	26.60%
富山キャンパス	2%



2021年度の決算における音楽教室の収支は、全体としては10,221千円の黒字となり、2020年度の赤字を改善した要因は、偏に各教室の努力に帰されるものである。ただし、下の表に示したように、ここ数年は全体の収支が30,000千円～40,000千円の黒字で決算されて来たことを考えれば、コロナ以前の状態には戻っていないといえる。

過去10年間の決算収支の変化

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
単年度収支	19,505	14,485	30,972	35,538	29,789	43,656	43,693	40,653	△ 45,498	10,221
収入	771,245	754,867	778,286	775,124	767,915	787,578	789,293	802,664	658,371	760,356
支出	751,340	740,382	747,313	739,586	738,135	743,922	745,600	762,010	703,869	750,135
収支差額累計	△ 335,476	△ 320,991	△ 290,019	△ 268,323	△ 238,534	△ 181,035	△ 137,373	△ 96,719	△ 142,217	△ 131,996
在籍数	2,192	2,181	2,219	2,190	2,127	2,169	2,287	2,154	1,992	1,991

今後、学部や高校の入学者を安定させるよう努力を続けるとともに、音楽教室の収支の改善に努めることが、音楽部門全体の経営の安定化には非常に重要であると考えます。

コロナがある程度の落ち着きを見せ、諸々の事柄が遠隔から対面に戻り改めて気が付いたことは、やはりface to faceでの人と人との関わりの大切さである。教室においては教員と学生生徒の間、学生生徒同士や教職員の間、また、高校と大学の間、仙川と富山の間、さらには、大高と音楽教室の間など、様々な関係において対面でのコミュニケーションを大切にして、より良い関係性を築くことが肝要である。新たに部門が手にしたハードを、授業や学校主催の演奏会のみならず、学校案内やオープンキャンパスなどにおいても最大限に活用して、音楽部門の教育の魅力を強め、それを直に発信し、才能ある若者が音楽教室から大学院まで幅広い年齢層において桐朋に集まるように努めたいと考えている。